



渡部彰大氏

概要

- ◆ **氏名・所在地**
渡部 彰大 北海道岩見沢市
- ◆ **就農年**
平成29年（雇用就農）・令和6年5月（自営就農）
- ◆ **経営規模**
たまねぎ 5.5ha
- ◆ **従業員数**
家族労働1名、パート・アルバイト（繁忙期のみ）4名
- ◆ **事業内容**
たまねぎ栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

新篠津村にあるたまねぎの有機栽培や特別栽培を行う農業法人に平成29年に雇用就農した。7年目を迎え、現場リーダーを務めていたところ、取引先である岩見沢市の農業者が継承先を探していることを雇用主である社長から聞いた。

このため、第三者継承の支援策等について情報収集するため、「北海道農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」主催の「北海道新規就農フェア」に参加した。

2 相談内容

取引先である岩見沢市の農業者から経営継承して就農予定であり、当事者間で話し合いを行っている。第三者継承により自営就農するにあたり、支援策や資金関係について相談したい。

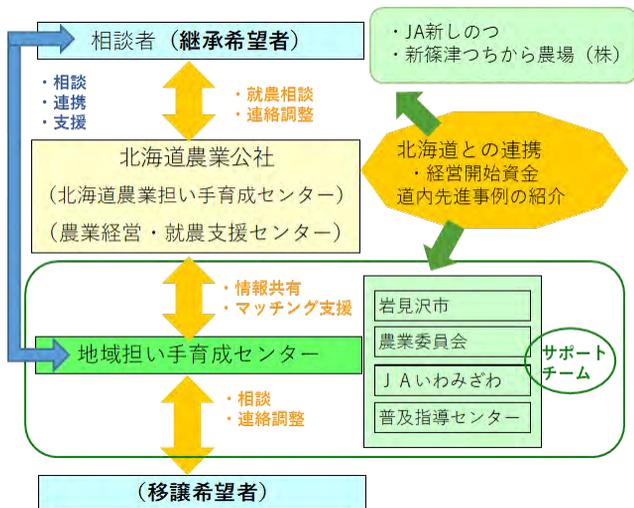
3 支援内容

●「北海道新規就農フェア」での対応

支援センターの就農相談窓口である北海道農業公社作成の「新規就農のためのガイドブック」に沿って、経営開始資金等の新規就農支援施策を中心に情報提供を行った。

また、経営開始資金の交付を受けるためには、岩見沢市より認定新規就農者として認定を受けることが必要であることを伝え、岩見沢市出展ブースにて認定要件の確認を勧めた。

▼第三者継承情報共有・支援の流れ



●支援センター窓口（北海道農業公社）での相談対応

第三者継承のトラブル回避のために、第三者の立会いのもと、都度、合意書や契約書を交わすことを勧め、様式を手交した。また、青年等就農計画の準備や青年等就農資金、経営体育成強化資金、住宅ローンについて情報提供を行った。

●関係機関との連携・情報共有

北海道内の第三者継承による新規参入受入事例（土地利用型）を収集した。そのうち、3事例について、岩見沢市に情報提供を行った。また、「経営開始資金」の要件などの解釈について情報を収集し、岩見沢市に情報提供を行った。

●継承時期の決定

- ・令和6年5月 認定新規就農者に認定。
- ・令和6年5月 農地を取得し、自営就農。

専属スタッフ所感

雇用就農先の法人社長やJA新しのつの後押しと岩見沢市地域担い手育成センターが相談者の経験値を高く評価したことで、短期間での自営就農に至りました。相談者のご自身でも事前準備されており意欲的に取り組まれました。今後必要に応じフォローしていきます。

今後の意気込み

つちから農場で学んだ『当たり前の事を当たり前こなす』、手を抜かずコツコツ農業に取り組みます！！



池田要祐氏

概要

◆氏名・所在地

池田 要祐 青森県青森市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

水稲、ぶどうでUターン就農を希望し、青森市内の大規模農業経営者の下で2年間の長期研修に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

東京都で働いていたが、先祖代々受け継がれてきた実家の農業の手伝いを通じて、地元青森へ貢献したいという思いが強くなり、結婚を機にUターン就農を決意した。

しかし、実家の農業を継ぐと決意したものの、農業経験が実家の手伝い程度しかなかった。このため、栽培技術や農業経営に関する知識を学ぶいい方法はないかと調べていたところ、地元の友人から「青森県農業経営・就農サポートセンター（以下「サポートセンター」という。）」の紹介があり、ホームページで支援内容を調べ、まずは話だけでもと思い相談した。

2 相談内容

「水稲」と「ぶどう」を主な栽培品目とした農業経営を行うための営農計画の作成や必要な知りたい。

将来的に実家の農業を継ぎたいが、農業に関する経験と知識が足りないため、「栽培技術」、「人材確保」、「経営」の全てに不安があり、農業経営に関する知識などが少ないまま親元就農をすることに迷いがある。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

就農相談時点では、農地取得や生活資金面を含む営農計画は構想段階であったため、農業を始める上で必要な情報や国等の支援事業を紹介した。

●研修受入先の紹介

「水稲」と「ぶどう」を主な栽培品目として地元青森市に就農したいという希望を踏まえ、水稲の大規模経営を営み、育苗ハウスを活用したシャインマスカット栽培のほか、りんごやニンニクも栽培している市内の農業経営者を研修受入先として選定した。

農業現場での実践的な研修に加え、農業の基本的な知識の習得や仲間づくりを行うために、研修受入先で令和6年度から2年間の長期研修を行うこととした。

●関係機関との連携による取組

相談者の実家は水稲やりんご、トマト、きゅうりを栽培品目とする農業者であり、後継者である相談者への経営継承に向けて、農業の基礎的な知識や栽培技術の習得が必要と判断された。このため、サポートセンターが中心となって就農相談に対応し、青森市や青森農業協同組合、サポートセンターのサテライト窓口である普及指導センターと連携を図った。



育苗ハウスを活用した研修先のぶどう栽培の様子

今後の意気込み

これまで青森県を離れていたため、実家の農業経営の状況も十分に知らない状態であり、将来的に私が経営を継いだ場合、どの程度の経営規模でどの程度の人数を雇えばいいかなどが分かりません。

上手く農業経営を行っている大規模農家が、どのように農業で稼ぐことができているのか、実家の農業経営と何が違うのか、足りないことは何かなど、多くのことを学びたいと思っています。

これらを学んだ上で、実家の農業経営を上手く改善するなど、自分なりの就農ビジョンを確立していきたいです。

専属スタッフ所感

実家の農業経営を継承したいという明確な意思を持つ、将来の担い手人材です。

相談者の希望及び実家の栽培品目に合った研修受入先を設定できたため、令和6年度からの2年間の長期研修で栽培技術等を学び、その先の経営継承、独立就農に至る道筋について整理できました。

今後、各機関と連携しながら、相談者の就農後の経営に必要な技術習得や経営継承に向けた支援を行っていきます。



大西進氏、由希子氏

概要

- ◆氏名・所在地
大西 進、大西 由希子 岩手県二戸市
- ◆就農年
令和5年4月
- ◆経営規模
野菜（ピーマン等）0.35ha
- ◆従業員数
パート・アルバイト 3名
- ◆事業内容
ピーマン等の野菜の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

就農前、進氏はガス関係、由希子氏はIT関係の会社に勤務しながら、家庭菜園で野菜等を栽培していたが、栽培をとおし、農業が自身に合っていると考え、本格的に就農を考えるようになった。
どこに相談すれば良いかわからなかったが、インターネットで調べたところ、「岩手県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」のサテライト窓口が関係機関と連携して開催している「二戸地方就農相談会」を知り、相談会に申し込んだ。

2 相談内容

就農を考えているが、農業の知識がないため、まずは具体的な栽培品目を決めたい。
また、農地を確保できていないため、自宅近辺にある農地の情報及び借用方法について教えてほしい。
その他にも、就農に係る手順や市町村等の支援制度があれば教えてほしい。

3 支援内容

●相談対応の流れ

サテライト窓口やJA、市町村が連携してワンストップで就農相談に対応する「二戸地方就農相談会」において、相談者の意向等を確認、共有した。その後は、相談内容に応じ、各団体及び機関が連携して個別に対応した。

●栽培品目の決定

二戸地域では、近年、ピーマンの新規生産者が増加しており、JAでは優良苗の供給体制を整備しているほか、圃場巡回や栽培指導会の開催により、栽培技術の向上を図っており、相談者を受け入れやすい環境が整っていたため、県作成の二戸地方園芸振興プラン等を参考に、二戸市が振興しているピーマンを栽培品目に決定した。

●農地の確保

自宅から近く、露地栽培向いていることや水源も確保できることなどを条件に、二戸市農業委員会が中心となり、農地の確保について支援した。

●資金及び機械導入等に係る支援

国の支援制度である経営開始資金及び青年等就農資金を活用するとともに、経営発展支援事業により、トラクター、マルチスプレイヤー及び管理機等を導入した。
また、事業の申請等に当たっては、就農5年目までの計画をまとめた「青年等就農計画」の作成について、JAを中心に、関係機関・団体が連携して支援した。



ピーマン苗の定植後のほ場



経営発展支援事業により導入した機械

今後の意気込み

まだ就農2年目なので、まずはその年の様々な気象状況に対応し、安定した収量を確保できるようにしたいです。
また、将来的には面積を拡大し、法人化を目指したいので、今後、支援センターには、法人化に関する経営相談をお願いしたいです。

専属スタッフ所感

相談者夫妻は、当初から「本格的に就農したい」との意向が強かったことから、青年等就農計画の作成を通し、比較的短期間で具体的な就農のビジョンが明確となり、就農相談を受けた翌年の4月からの就農につなげることができました。
相談者夫妻の今後の経営発展に向けて、引き続き関係機関と連携し、栽培技術の向上及び法人化等を支援していきます。



アスパラガスのハウス栽培を研修中の佐藤佑樹氏

概要

◆氏名・所在地

佐藤 佑樹 宮城県柴田町

◆研修開始年

令和5年9月

◆研修内容

宮城県村田町の佐藤民夫氏のもとで、多品目野菜（スイートコーン、アスパラガス、いちじく等）の栽培技術及び直売所を中心とした販売方法などの研修に取り組む。

1 就農相談までの背景

農業資材を扱っていた前職では、「お客様の質問に答えられる、確かな知識を身につけたい」という目標があった。10年間続けていた市民農園での楽しい経験と目標がいつしか重なり、もっと農業を知りたい、さらには農業を仕事にしたいと思うようになった。

その際、就農地として頭に浮かんだのは、祖父母が生活していた宮城県柴田町であった。当時、北海道で仕事をしていたため、宮城県の就農支援等についてネットで調べ、就農相談会にオンラインで参加することとなった。

2 相談内容

祖父母が農地を所有していた柴田町で、独立自営就農したいという相談をした。栽培品目については、栽培経験があった長ねぎとアスパラガスをイメージし、情報収集はしていたが、実際に宮城県内ではどのように栽培されているかの知識があまりなかった。そのため、県内で生産に取り組んでいる農業者の視察と、実際に研修を受け入れてくれる農業者の紹介を「宮城県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談した。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

就農相談会終了後、就農専属スタッフから就農希望地である柴田町や大河原農業改良普及センターに相談者情報を共有するとともに、研修中の生活資金について佑樹氏が不安を抱えていたため、就農準備資金について説明した。

●研修機関等の紹介

相談者が希望する栽培品目（アスパラガスや長ねぎ等の多品目露地野菜）を地域の気候に合った栽培方法で生産し、直売所を中心に出荷しており、かつ、研修生の受入実績もある隣の佐藤民夫氏を研修候補先として、柴田町が紹介した。研修候補先の視察を通して、相談者が目指す農業経営に近いことが明確となり、研修先が決定した。



関係機関と共に佐藤民夫氏（研修先）を訪問

●関係機関との連携による取組

就農相談会終了後、支援センターと、就農希望地である柴田町、大河原農業改良普及センター、J Aみやぎ仙南とが連携し、就農に向けた支援体制を整え、視察先の調整を行った。

研修候補先に、相談者と関係機関が一緒に足を運ぶことで、品目研修内容を具体的にイメージでき、支援体制内で課題や支援内容を迅速に共有できた。

●就農市町村の決定

就農希望地の柴田町や農業委員会は、研修中の居住地や農地に関する情報を提供し、早い段階から密接な支援を行うことで、貸借する農地が決定し、研修中から就農後の生活基盤が固まった。



栽培品目選定に向けた長ねぎ栽培の視察

今後の意気込み

研修は、当初2年間で、就農は令和7年9月の予定でしたが、新たな農地利用の見込みと研修先の後押しがあり、令和6年9月に就農することとしました。

既に、栽培品目の選定や就農計画の作成、出荷先との調整等、就農に向けた準備を関係機関の指導の下、進めていきます。

専属スタッフ所感

就農相談では相談から研修開始まで、関係機関と常に相談しながら、就農計画の作成支援や研修先等の準備を進めています。

相談者は、相談前から就農希望地や栽培品目について情報収集されており、就農ビジョンが明確化であったため、関係機関と共にスムーズに支援することができました。引き続き、関係機関と情報共有を行いながら、就農に向けて相談者をサポートしていきます。



経営継承により新規就農した高橋一成・真由夫妻

概要

- ◆ 氏名・所在地
高橋 一成、高橋 真由 秋田県男鹿市
- ◆ 就農年
令和6年4月
- ◆ 経営規模
日本なし 2.0ha
- ◆ 従業員数
常時雇用1名、パート・アルバイト5名
- ◆ 事業内容
樹園地を継承し、日本なしの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

県内大学在籍時に、インターンシップやボランティア、アルバイトなどを通じて数多くの農家と交流する中で、その土地の風土や生産者の考え方の影響を受け、生産される農作物に魅力を感じ、二人が好きなら果樹で就農したいと考えたようになった。

就農前研修として、「未来農業のフロンティア育成研修（秋田県研修制度）」に参加し、果樹試験場において技術を習得していく中で、指導担当の研究員や普及指導員の紹介により「秋田県農業経営・就農支援センター」に相談することとなった。

2 相談内容

秋田県で日本なし栽培に取り組みたいということから、技術習得研修を受けるとともに、地元JA職員及び市職員と共に継承できる樹園地を探し、令和5年冬に継承する樹園地が決まった。

しかし、どのように経営を行えば良いのか、樹園地をどのように継承すれば良いのか等の様々な課題があり、専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、より具体的な営農計画の作成や経営継承等について相談した。

3 支援内容

● 関係機関との連携による支援

就農先となる男鹿市や出荷先となるJAと共に、補助事業の活用を含めた相談対応を行い、新たな栽培品目として大粒ぶどう栽培開始に向けた補助事業や経営開始資金の活用が検討された。

● 経営継承に向けた相談対応

樹園地の継承に向け、前園主を交えて、経営継承の方法について個別支援チームで相談対応した。農地や機械は賃貸借契約で利用することし、今後の売買についても話し合った。これらの内容は申し合わせ事項として書面を作成し、双方と前園主の相続人が保管する形で経営継承を見える化することができた。

● 具体的な営農計画の相談対応

営農開始に向け、相談者が作成していた収支計画を基に、就農後の収量推移の見通しや、必要となる機械及び資材等の精査、必要労働力の計算等を含めたより詳細な営農計画の作成について、個別支援チームにより支援を行った。

あわせて、移譲を受ける日本なしの樹園地に加え、大粒ぶどうの導入を目指し、5年後の経営を見据えた営農計画となるように支援した。



就農研修で機械操作研修を受ける一成氏



営農計画の作成に向けて説明を受ける高橋夫妻

今後の意気込み

まずは就農地域に馴染み、前園主の協力を得ながら日本なしの早期生産安定を図りたいと思います。

その上で大粒ぶどう栽培にも挑戦し、収益性の向上による経営安定を図り、観光や地元の飲食店と連携することで、地域に人を呼び込めるようにしていきたいです。

専属スタッフ所感

県外出身のお二人による移住就農でしたが、日本なしに取り組みたいという強い意志と地元JAの手厚い支援により、円滑な経営継承・就農が実現しました。

特に果樹においては、生産者の高齢化に伴う第三者継承の事例増加が予想されることから、本事例をモデルの一つとし、支援を行っていきます。



今橋知幸・理砂夫妻

概要

◆氏名・所在地

今橋 知幸、今橋 理砂 山形県最上町

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

養蚕とまきのこで就農を希望し、現在、2年間の長期研修に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

茨城県で働いていたが、20数回訪問して大好きになった山形県で夫婦一緒に就農することを決意した。就農候補地を探すうちに、令和4年12月に訪れた最上町の雪景色に魅了され、最上町への移住を決意した。

「きのこ」生産に取り組みたいと、体験先の農家を探す中で、様々な人とのつながりができ、養蚕とまきのこを営む下山菊夫氏（最上町）と出会った。下山氏と意気投合し、下山氏の下で研修を行いたいと話が進んだ。

2 相談内容

令和5年1月、今橋夫妻が「山形県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を訪問し、「令和5年2月、最上町に移住したい。自分たちに農業経験はないが、今後、最上町で、養蚕・まきのこの技術を学び、就農したい。技術習得に向けた各種研修に関する情報等を知りたい。」という相談があった。

生活面は最上町が、独立就農に向けた研修等は主に支援センターが対応することとなった。

3 支援内容

●生活面の相談対応

今橋夫妻は、令和4年12月に最上町に移住相談を行い、町より町営住宅の空き情報を得て、年明けの令和5年2月に最上町に移住した。

●研修機関等の紹介

令和5年1月以降、支援センターで今橋夫妻と複数回の面談を実施し、令和6年度から下山氏を受入農家とする長期研修を始める方向で調整した。

なお、県内で養蚕に取り組んでいる農家は2戸まで減少しており、関係機関には、養蚕に係る研修プログラム等はないことから、養蚕に関して知見を有する県職員OBのサポートを得ることとした。



桑園の管理作業

●関係機関との連携による取組

支援センターが中心となって、相談者夫妻の就農相談に対応した。また、下山氏を出し手、相談者夫妻を受け手とする経営継承の話も出たことから、経営継承の面からの支援も行った。相談内容については、随時、最上町、県最上総合支庁農業技術普及課等と共有を図った。

相談者夫妻は、令和5年度は長期研修の準備段階で、その生活支援が急務であったことから、県が新たに事業化した移住者向けの「お試し就農移住体験」を活用し、下山氏が相談者夫妻に支払う賃金の一部を支援した。



自動給餌機械を使った蚕の飼育

今後の意気込み

令和5年から夫婦で養蚕と菌床なめこの匠の下で2年間の長期研修を行っています。就農後は、二人で力を合わせ、国内でも希少な養蚕と、木箱を使った菌床なめこという特徴を活かして、高付加価値化や新たな販路開拓、作業の省力化等に積極的に取り組みたいです。

専属スタッフ所感

農業未経験であっても、「山形県で農業をしたい。」という“希望”を持つことが出発点です。

相談者夫妻は、県内で「養蚕」と「まきのこ」で就農したいと強く希望したことから、関係機関に加え、養蚕に詳しい県職員OBの協力を得て、令和6年度からの長期研修とその先の独立就農に至る道筋について整理しました。

各機関と連携しながら、相談者夫妻の就農後の経営に必要な技術習得や経営継承に対する支援を行ってまいります。



渡邊有紀氏

概要

◆氏名・所在地

渡邊 有紀 福島県三春町

◆就農年

令和6年4月

◆事業内容

就職先の農業法人にて主にハーブ栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

トルコギキョウを栽培している農業法人でアルバイトをした際、農業に興味を持った。

その後、他業種に就いたものの、自分のペースで働ける農業に魅力を感じ、自営就農を目指して情報収集をしながら、県内の農業法人である株式会社ファームアシベでアルバイトをしていた。

本格的な就農に向けて、研修先や農地について役場に相談していた中で、「福島県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」の紹介を受けた。

2 相談内容

当初は自営就農を目指しており、就農計画の作成や農地の斡旋について、役場に相談していた。

しかしながら、相談していく中で、自営就農には農地や販路、労働力の確保など様々な課題があることが分かった。

それでも農業を仕事にしたい思いは変わらなかったため、ゆくゆくは独立も視野に入れて就農形態を雇用就農に切り替え準備をしていきたい。

3 支援内容

●就農計画に係る支援

相談者はトルコギキョウで就農することを希望していたが、農業経験が少ないこともあって、具体的な経営収支や補完品目の組み合わせ、労働力や販路について確かな計画を立てるまでに至っていなかった。

そのため、支援センターのサテライト窓口にて、農業経営や就農形態、研修先等を考える上で必要な情報を提供・提案した。

●研修中のフォローアップ

相談者は就農準備資金を活用して、郡山市園芸振興センターでトルコギキョウの研修を開始した。就農専属スタッフやサテライト窓口職員が、年に2回、相談者の研修先を訪問し、現状の確認と今後について研修先の指導者と共に面談する等のフォローアップを行った。

●農業経営のセミナー等への参加誘導

就農に向けた情報収集を行うために、支援センターが主催するセミナー（経営管理の基礎や雇用、市町村等の関係団体及び県内就農者の取組発表等に係るセミナー）への参加を促した。

セミナーの参加を通じて、農業経営の実態を学び、自身の就農の形についてより考えを深めることができたため、アルバイト先であった株式会社ファームアシベに雇用就農することとなった。



就農先の株式会社ファームアシベの皆さん



支援センター主催のセミナーの様子

今後の意気込み

農業を仕事にしたいという気持ちは強くありましたが、実際に窓口で相談し、セミナー等にも参加して勉強していく中で、就農実態を学ぶことができました。

今後も就農先で知識や技術を磨きながら、将来的には独立も視野に入れて、農業に励んでいきたいと思えます。様々な関係者の方に助けていただき、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談にあたり、相談者の希望と現状のすり合わせを丁寧に行い、その中で様々な選択肢を提示していくことで、無理のない就農につなげることができます。

相談者はご自身で農業法人でアルバイトをされたり、支援センター主催のセミナーへも積極的に参加し、情報収集されたことで、雇用就農という形で農業に参入いただけました。

しっかり地域に定着し、担い手となっていただけるように、今後もフォローしていきます。



ほ場を管理する（左から）長崎氏、岩瀬氏、山崎氏

概要

◆会社名・所在地

株式会社日本農業 代表取締役 内藤 祥平
東京都品川区（参入地：茨城県城里町）

◆参入年

令和6年2月

◆経営規模

リンゴ、キウイ等 88.7ha（うち茨城県城里町 梨・桃 0.5ha）

◆従業員数

正社員 121名（うち茨城県城里町 正社員3名）

◆事業内容

国の研究機関と連携し、初期収量が高く早期成園化が可能な日本初の樹形で、梨・桃の栽培に取り組み、輸出を主体とした新たな産地形成を図る。

1 就農相談までの背景

2016年11月に農業ベンチャーとして設立し、輸出を軸としたリンゴなどの果樹生産をメインとしていたが、近年、国外における梨・桃のニーズの高まりを感じ、関東近郊で、輸出を主体とした梨・桃のほ場を新規に開拓することを目指していた。

参入する農地を探す中で、「茨城県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」のホームページを見て、問い合わせた。

2 相談内容

革新的な栽培手法を積極的に採用しており、国の研究機関に技術指導を受けていた。また、販路は確保しており、事業計画は出来上がっているものの、農地が見つからない状況であった。

農地を確保し、早期に事業化を図るため、支援センターを通じて、荒廃農地の紹介や市町村との仲介などの支援をお願いしたい。

3 支援内容

●条件に合致した農地、市町村とのマッチング

農地の条件等の希望をヒアリングした上で、複数の市町村を紹介したところ、受入れに対する積極的な姿勢や作物を育てやすい風土、大規模にまとまった農地がある事など、様々な条件が重なり、城里町への参入が決定した。

●農地拡大に向けた支援

城里町では、今回参入した農地の他にも、県と連携して地権者の貸借意向の取りまとめ等を行っている。収集した農地情報を基に、同社の規模拡大意向に応じて、農地の紹介や受入れに向けた地権者への説明などの支援を行っている。

●町や関係機関と連携した支援

参入にあたっては、同社と組合の顔合わせの場などに城里町と共に同席し、地元の合意形成を促した。

また、普及指導センターや先進農家を紹介し、視察や栽培技術の習熟に向けた支援を行った。



城里町のほ場
日本初の樹形による栽培



定植した梨苗の状況を確認する山崎氏

今後の意気込み

町と県が連携して、手厚く支援いただいたことが茨城県への参入を決める一因となりました。特に城里町は、人、農地、環境等のあらゆる要素に可能性を秘めた土地だと感じています。

今後は作物を販売するだけでなく、私達の栽培ノウハウを他の新規就農者または新規参入法人に継承し、新たな産地の形成に取り組みたいです。

専属スタッフ所感

株式会社日本農業と城里町は、令和6年2月14日に「農業発展と地域の活性化に関する連携協定」を締結しており、今後、地域の農業の担い手としてご活躍されることと期待しています。

町や関係機関と連携し、円滑な企業参入に向けた支援を実施することができました。

今後も、相談者のニーズに応じた支援を継続するとともに、これから参入を検討する企業に対しても、同様の支援を行ってまいります。



高城直昭氏

概要

- ◆氏名・所在地
高城 直昭 栃木県宇都宮市
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
いちご 0.15ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
いちごの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

20年後の自分の健康面や仕事について考えていた際、妻の実家の農業を手伝ったことをきっかけに、農業を始めたと思った。

妻の地元である栃木県での就農を考え、ネット等で情報を集めた結果、「とちぎ農業経営・就農支援センター」でオンライン就農相談を実施していることを知り、連絡をとった。

2 相談内容

「栃木県で農業を始めたい」と大まかな構想があったため、ネット等を活用して情報を集め始めた。
しかし、県外出身であり、農業の知識がほとんどなかったことから、栃木県農業の状況や農業を始めるにあたっての技術面と資金面の課題解消方法、就農にあたり何から始めたら良いかなどの専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、相談を依頼した。

3 支援内容

●就農地や研修の相談対応

県外出身であり、農業未経験であったことから、県内の産地の状況や農地取得・生活資金面等の農業を始める上で必要な情報を提供するなどの相談対応を就農専属スタッフが行った。

●研修機関等の紹介

相談者の希望を踏まえ、J A や市町ごとの研修情報や産地情報を提供し、就農希望地を選定した。
あわせて、相談者の同意の上で、就農専属スタッフから相談者の就農希望地の就農サポートチーム（宇都宮市、宇都宮市農業公社、河内農業振興事務所）へ就農相談カルテを共有した。

●関係機関との連携による取組

県の認定研修機関である宇都宮市農業公社において、実践的な農業技術や農政にかかる基礎知識、農業経営者としての自立に向けたカリキュラムや農家派遣研修を受けた。

●独立自営就農に向けた支援

研修中に、地域の就農サポートチームが農地や施設の取得、資金確保、青年等就農計画作成等の支援を行った。
地域と連携した支援により、農地が確保され、就農に向けた準備が整った。



相談対応の様子



研修会の様子

今後の意気込み

粘土質の土地で、排水性向上など地盤改良が必要と感じている。土づくりをしっかりと行い、計画収益の達成に向けて頑張りたい。

周囲の先輩農家から助言をいただきながら、いちご栽培に真摯に取り組んでいきたい。

専属スタッフ所感

就農相談時の積極的な姿勢から就農への強い意欲を感じました。県外から移住しての就農には大きな決断が必要だったと思いますが、オンライン、電話、面談と相談を重ねていくにつれて、栽培品目が決まり、目指す方向性が固まりました。研修機関のサポートと本人の努力によって就農にたどり着いたことは本当にうれしく感じます。就農後も地域の就農サポートチームを中心に技術や経営面について支援していきます。



研修先で指導を受けるM.H氏（写真左）

概要

◆氏名・所在地

M.H 高崎市

◆研修開始年

令和6年4月～令和7年3月

◆研修内容

有機野菜での就農を希望し、現在、コマツナ、ズッキーニ、ニンジン等の有機栽培を行う農業者の下で1年間の長期研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

東京都で生活していた際に、スーパーに並ぶ野菜の産地を見て、今後の日本における食料の自給がどうなっていくのかが気になり始め、いずれは循環型農業による有機野菜の栽培を行いたいと考えた。しかし、何から始めれば良いかわからなかったため、ネットで調べたところ、有機栽培を行っている生産団体を知り、その団体から「群馬県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を紹介された。

2

相談内容

「実家がある群馬県で有機野菜を始めたい」と大まかな構想はあったが、農業の知識や経験がほとんどなかったため、技術習得のために長期研修を行いたい。また、就農までの手順や活用できる支援策を教えてください。

3

支援内容

●オンライン就農相談

相談者は東京都に在住しながら研修開始の準備を進めていたため、オンラインでの就農相談を実施した。メールや電話だけでは分からない本人の表情や意気込みなどをきめ細かに確認することをしっかりと心がけることで、相談者が本当に気になっていることを機動的に情報把握するなどの相談対応を行った。

●農業体験事業の紹介

農業経験がほとんどなかったため、県主催の農業体験事業を紹介し、就農希望地で有機農業に取り組む農業者の下で農業体験を行った。これにより就農に対する想いがこれまで以上に強くなり、長期研修に向けて話を進めることになった。



農業体験事業の様子

●営農計画作成支援

支援センター及び県で、何度も相談者と打合せを重ね、就農するまでのスケジュールや作目の選定、作目の収支等を詰め、就農計画書等を作成した。

●研修機関等の紹介

相談者が希望する有機野菜の栽培を行っている研修先農家を選定し、研修開始に向けて研修計画や就農計画の作成支援を行った。



研修先で栽培されている有機野菜

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行っても何度か相談することでしか得られない情報が多くありました。

研修を終えて就農した後は、自らの生産量を増やすだけでなく、地域のグループの人たちと共に地域農業が発展していけるように頑張りたいです。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでしっかりと農業に定着していただき、更なる経営発展にもつながります。

相談者はご自身でも事前に準備されていたため、就農におけるビジョンが明確化されており、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。

サラリーマンから地域農業の担い手を目指して

雇用就農

その他（研修）



法人時代の仲間と（右から2人目が細野一司氏）

概要

◆氏名・所在地

細野 一司 埼玉県加須市

◆就農年

令和5年8月

◆経営規模

水稲 12ha、麦類 6ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

水稲（移植・乾田直播）と麦類（小麦・二条大麦）の栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

非農家出身であるが、近所に住む伯父の水稲栽培を幼少期から手伝っており、農業に関心があった。

高校卒業後、運送業に従事した約20年間で、伯父や地域の農業者の高齢化の進展を実感し、地域農業の担い手となるべく、就農を決意した。

当時42歳と年齢的なこともあり、計画的に就農を実現するべく情報収集していたところ、「埼玉県農業経営・就農支援センター」を知り、サテライト窓口である普及指導センターへ相談することにした。

2

相談内容

伯父の手伝いで水稲栽培に関する技術や知識は多少あったものの、就農にあたってはより高度かつ効率的な栽培技術が必要であると思ったため、研修受入先を紹介してもらいたい。

また、農地の取得方法や、補助事業等の行政による就農支援制度について相談したい。

3

支援内容

●就農に関する情報提供

農地の取得方法や就農支援制度など、就農にあたり必要な情報について情報提供を行った。

●研修先の紹介

研修生や社員を育成し独立就農を支援した実績を持ち、かつ社長が県指導農業士である加須市内の農業法人に対し、研修先としてマッチングを行った。

同法人に2年間研修生として雇用され、水稲・麦類の栽培の基礎から大型農業機械の操作方法を習得した。

●関係機関との連携による独立就農支援

法人からの独立就農にあたり、法人に在籍している間から農地や機械の取得、青年等就農計画の作成等について、市や関係機関と連携し支援を行った。

また、国の補助事業を活用してトラクタを導入するための支援を行った。



農業法人での研修の様子



相談対応の様子

今後の意気込み

普及指導センターで研修先として紹介してもらった農業法人で、これまで経験のなかった乾田直播や麦類の栽培も含め、2年間にわたり多くの技術を習得できました。現在就農2年目ですが、法人在籍時の仲間のサポートもあり、順調に規模を拡大しています。

今後は、自分がお世話になった法人のように、新たな人材を育成し、この地域の担い手を増やしていきたいです。

専属スタッフ所感

相談者は、水稲栽培の経験があったものの、農業法人で謙虚に新たな技術を学び、そして社長を中心とした「仲間」を得たことで、就農後の経営を軌道に乗せることに成功しました。また、高齢化が進む地域農業への危機感とそれに対する熱い思いが共感を呼び、周囲のサポートを得る一助にもなっていると感じます。

今後も、栽培技術や経営に関する支援を行い、更なる規模拡大・経営発展に向けてフォローしていきます。



鳥海阿生乃氏

概要

- ◆氏名・所在地
鳥海 阿生乃 千葉県富津市
- ◆就農年
令和6年5月
- ◆経営規模
露地野菜（小松菜・とうもろこし等） 0.2ha
- ◆従業員数
家族労働 2名
- ◆事業内容
露地野菜の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

実家は兼業農家であるが、就農はせずに、調理師免許を取得して、東京都内の調理師学校に勤めていた。いずれは、地元富津市に戻り、調理師として働くことを考えていたが、調理師学校の体験実習で農作業を行う機会があり、改めて農業の楽しさや重要性に触れて、今後も農業に携わっていきたいと感じるようになった。その思いを持って、栽培技術等を学ぶために千葉県立農業大学校の研修を受講し、座学や実技、農家研修を通じて知識や技術を習得した。

2 相談内容

主要な栽培予定品目である「小松菜」については、地域での生産が少なく、青年等就農計画を作成するために必要な経営収支状況などが不明だったことから、「千葉県農業経営・就農支援センター」に相談した。

また、経営開始資金や経営発展支援事業の活用方法や借受予定農地の土壌特性に応じた土づくりに関する相談を行った。

3 支援内容

●栽培品目の相談対応

栽培を予定している小松菜について、県内で生産が盛んな地域の経営収支の状況等について情報提供を行った。

●関係機関との連携による取組

青年等就農計画の精査・検討や今後の支援方針の情報共有を図るために、市やJAを交えて、本人と打合せを行った。

●地域の仲間づくりや資質向上に向けた取組

営農開始後は、経営者としての資質向上や地域の仲間づくりが重要となることから、新しく農業を始めた青年農業者を対象に普及指導センターが開催しているセミナーへ参加を促した（令和6年度からセミナーに参加予定）。

●機械導入に向けた関係機関による支援

相談者がトラクターの購入を検討していたことから、関係機関で連携し、支出を抑えて導入する方法を検討・提案した。



圃場での相談の様子



栽培管理を行う鳥海氏

今後の意気込み

現在の栽培面積は20aですが、将来的には60aまで栽培面積を拡大し、直売所だけでなく市場出荷や給食センターへの納品など、販路を増やしていきたいと考えています。また、今後農業を続ける中で様々な課題に直面すると思いますが、あきらめずに続けていきたいです。

専属スタッフ所感

相談者は営農を開始するにあたって、借りる圃場の特性に応じて栽培品目を選定するほか、作付のスケジュールも計画的に考えています。また、土づくりにも積極的に取り組んでおり、営農に向けた準備を丁寧に進めています。今後の営農計画として、規模拡大や栽培品目数の増加等を検討していることから、関係機関と連携した上で、営農段階に応じたフォローを行います。



トマトハウスでの今秀之氏

概要

- ◆氏名・所在地
今 秀之 神奈川県厚木市
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
施設トマト 4a、露地野菜 17a
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
施設トマトと露地野菜栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

農業従事者の減少や高齢化という社会課題を知り、職業として農業に興味を持った。まずはボランティアとして参加し、農業を知ることから始めた。その経験を通じて、人が生きていく上で絶対に必要な食を支え、消費者に喜びを感じてもらえる魅力ある職業だという思いを強くし、本格的に就農を考えるようになった。
「農業をはじめる.JP」で調べ、神奈川県農業会議等に連絡したところ、「神奈川県農業経営・就農支援センター」を紹介された。

2 相談内容

施設でトマトを栽培したいと思い、農家等での研修、農業法人での雇用就農又は神奈川県立かながわ農業アカデミーに入校して研修を受けるなど様々な選択肢がある中で、どのように技術の習得をしたらよいか相談した。
かながわ農業アカデミー入校後は、就農地の情報や青年等就農計画の策定方法について、アドバイスを受けた。

3 支援内容

● 研修機関等の情報提供

神奈川県における施設トマトの収益性・トマト農家の現状、新規参入者の状況等について情報提供した。
また、研修先としてかながわ農業アカデミーのカリキュラムや取組等を紹介したほか、農家や農業法人で研修する場合のメリット等を説明したところ、かながわ農業アカデミーに入校して研修することとなった。

● 関係機関との連携による取組

就農希望地に所在する厚木市都市農業支援センターと連携・情報共有し、同センターの支援を受けて、居抜きハウス4aのほか、農地17aを借りることができた。

● 青年等就農計画の作成支援

厚木市での就農に向けて、販売方法や農業所得の算出、単価の設定等についてアドバイスを行い、就農計画の作成を支援した。

今後の意気込み

ネット情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行っても何度か相談することでしか得られない情報が多くありました。研修や実際の現場で得られる知識は多く、深く学ぶことで自分の力としていくことが必須だと感じました。
農業経営はまだ手探り状態ではありますが、関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。まだまだ駆け出しな状態ではあるので、これまでに得た知識やこれから学んでいくことを最大限に活かしていきます。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。
相談者は施設トマトを栽培したいという強い希望を持っていましたが、トマト栽培は未経験でした。かながわ農業アカデミーに入校後、経営ビジョンを達成するため意欲的に研修に取り組みながら、農地探し等の就農活動に励んだことで、卒業後速やかに就農することができました。
今後も地域の担い手としてステップアップできるように、応援しています。



袋かけを行うM氏

概要

◆氏名・所在地

M氏 山梨県笛吹市

◆研修開始年

令和6年1月

◆研修内容

モモ栽培での就農を希望し、農業振興公社での2年間の長期研修に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

前職で生花店に勤務し、取引先の生産者を訪問した際にもものづくりに対する生産者の姿に感銘を受け、農業に興味を持った。その後、研修指導者となるモモ農家と出会ったことをきっかけに、モモ栽培を行いたいと考えようになった。

何から始めれば良いか分からなかったため、「山梨県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」へ相談した。

2 相談内容

笛吹市のモモ栽培農家でアルバイトを行っているが、今後**独立就農して、本格的にモモ栽培を行いたい。**

しかし、技術面や資金面に課題があることから、就農に向けた栽培技術の習得方法や支援制度等について具体的に知りたい。

3 支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、栽培技術習得研修や就農準備資金、経営開始資金、認定新規就農者制度について説明した。

また、栽培品目と就農地が定まっていたことから該当地域を管轄する支援センターのサテライト窓口である普及指導センターを紹介し、普及指導センターでは研修制度の要件確認とモモ栽培技術を学ぶための派遣研修先となる農業振興公社との調整を行った。

その後、普及指導センターで研修計画作成支援を行い、農業振興公社での研修を開始した。

●関係機関との連携による取組

普及指導センターと農業振興公社が、研修生や研修指導者に対する現地での**定期的な研修状況の確認や個別相談対応を随時行った結果、順調に栽培技術を習得していることを確認できた。**今後も市町村等と連携して、引き続き就農に向けて支援していく。

●就農市町村の決定

派遣研修先の研修指導者からの紹介で今後借りることのできる農地の目処が立ってきており、また地域とのつながりも良好であるため、2年間の**研修終了後には地域への円滑な定着が期待できる。**



研修先での花粉採取作業



研修先での摘果作業

今後の意気込み

農業に関して何もわからない所から、就農に向けた手順を丁寧に教示頂き、一步を踏み出す事ができました。

まだ知識・経験不足で手探り状態ではありますが、研修を通して成長していけるよう、誠心誠意取り組んでいきたいと思ひます。

専属スタッフ所感

支援センターは就農希望者のワンストップ窓口となっています。就農相談に来る方は、栽培品目や就農地が決まっていない方、移住まで検討している方、既に農業の方向性は定まっているが支援制度を知りたい方、農地の確保を図りたい方等様々であるため、相談内容に応じ、普及指導センター、市町村、JA等に繋げています。

今回の相談者は内容が具体的であり、意欲が高かったため、いち早く実践的な研修に入れるよう対応しました。



寝食をともにしている農業大学校研修部の仲間たちと
(後列中央が高橋大輔氏)

概要

◆氏名・所在地

高橋 大輔 長野県小諸市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

長野県農業大学校研修部において、作物や果樹、野菜について、座学と実習を組み合わせ、基礎的な農業の経営知識と栽培技術の習得を目指す。高橋氏は果樹を専攻しており、リンゴやブドウ等の栽培管理や経営について学んでいる。

1 就農相談までの背景

会社勤めもひと段落した中、元々農業に関心があったことから、定年退職のない農業に、体力があるうちに取り組みたいと考え、就農を決意した。首都圏に近いということ、果樹と言えば長野県ということから長野県での就農を考えた。就農するにはどうすればよいか、インターネットで調べていた際に、「長野県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」等が開催する就農相談会の存在を知った。

2 相談内容

「本格的に長野地域で果樹栽培に取り組みたい」という想いをもって相談会に参加した。その上で、具体的な栽培品目及び就農市町村の選定や研修制度について相談したい。

3 支援内容

●関係機関との連携による相談活動

4月に長野農業農村支援センターが、オンライン上で相談者に相談対応し、農業体験・研修等の情報提供を行った。

7月に新宿で支援センターや関係機関等が共同で開催した「長野県市町村・JA合同就農相談会」において、県や長野地域など複数のブースで相談対応を行った。各相談会では、農業ガイドブック「農活in信州」を用いて農業のリスク、就農へのステップ、研修制度、助成事業等を説明した。また、相談会では体験の重要性も説明し、県の体験研修などを紹介した。

その後、県は就農地域をアドバイスし、相談を重ねることで、相談者の覚悟が深まり、栽培品目や就農地域が絞られていった。

●体験研修の受け入れ

長野県では、就農後の早期の経営確立を目指し、里親農業者による実地研修と農業大学校研修部での集合研修を組み合わせた新規就農里親研修を実施している。

支援センターの紹介により、里親研修の前段として、県農業大学校が実施している基礎的な農業に関する知識や技術を取得するための里親前基礎研修を受けることになった。

●研修先の決定

村主催の農業体験に参加し、受入農家が長野県農業大学校の出身で、実習を通じて基礎を学べるとのアドバイスを受け、見学等を通じて研修先を決定した。



長野県市町村・JA合同就農相談会の様子



リンゴの摘果作業

今後の意気込み

今は子供の学校の関係で、家族は千葉県に残っていますが、ゆくゆくは家族も長野県への移住を考えています。

自分が作ったリンゴやブドウを多くの人に味わってもらいたい。農業経営を軌道に乗せ、楽しく、長く続けていきたいと思っています。

専属スタッフ所感

当初はまだ漠然とした相談でしたが、相談を重ねることでイメージが明確になり、品目や地域が絞られていきました。

支援センター、県現地機関（普及指導センターと農業大学校研修部）、就農候補地の自治体が連携して相談に当たりました。相談・体験・研修のステップを踏んでおり、着実な就農が期待されます。研修機関と現地機関との連携を密にし就農を支援していきます。

地域の関係機関が連携した ワンストップ体制による新規就農支援

自営就農



指導農業士による相談者への栽培指導

概要

- ◆氏名・所在地
岩本 賢 静岡県沼津市
- ◆就農年
令和7年1月(予定)
- ◆経営規模
みかん 0.3ha(予定)
- ◆従業員数
臨時アルバイト 若干名(予定)
- ◆事業内容
温州みかんの栽培に取り組む予定である。

1 就農相談までの背景

大学生の頃から、みかん農家になると考えており、特に静岡県沼津市西浦地区の風景に惹かれていた。そういった思いから、大学を卒業して数年間、関西の農業法人で農業に従事しながら、西浦地区での就農への道を探ってきた。

「静岡県農業経営・就農支援センター(以下「支援センター」という。)」へ相談するとともに、普及指導センター及びJAとの相談を経て、自営就農の意思を固めた。

2 相談内容

自営するために必要な経営面積や産地の様子などはJAから聞いていたが、みかん農家として自営就農するまでの道筋はよくわからなかった。そのため、具体的にはいつまでに必要な資材や土地を確保するか、自己資金が必要か、生活はどうするか、研修のタイミングはいつかなどについて情報を求めた。

3 支援内容

●研修機関等の紹介

相談者の希望する作目や地域が決まっていたため、研修に向けた制度紹介や具体的な手続きなどの相談対応を主に行った。

就農希望地域には新規就農希望者をサポートする「なんすん地域受入連絡会」が設立されており、JAや指導農業士、市、県が協力して支援する体制が整っている。

「なんすん地域受入連絡会」を紹介し、相談することを勧めた。また、研修が円滑に進むように、支援センターは現地見学会を開催した。

●関係機関との連携による取組

相談者が就農して農業所得を得るまでの期間は短い方が好ましく、研修や各種支援制度の申請手続きなどは、短い期間で円滑に進める必要がある。

そのため、「なんすん地域受入連絡会」は相談者に対して、農家研修や農地紹介、制度資金申請の指導等について、JA、市、県、それぞれの立場から包括的に支援してきた。

支援センターは、サポートチームの一員として相談者に対して、研修事業や農地バンク事業としての農地斡旋等の支援を行い、連絡会運営に関する助言等を行った。



相談者と関係機関による就農候補地の調査



連絡会による就農スケジュールに関する打合せ

今後の意気込み

ネット情報だけでは分からないことも多く、実際に現場や窓口に行って何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

まだ農業技術を学んでいる段階ではありますが、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただけるとのことです、頼もしく思っております。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にも繋がります。

相談者はみかん農家になるという目標を持って、農業法人で経験を積んでおり、一定の農業技術を有していました。また、地域側も受入連絡会を設立し、関係機関の情報共有や支援の役割分担を明確にすることで、スムーズな就農に繋がる事が期待できます。今後も継続してフォローを行っていきます。



研修受入農家の高橋健太氏（左）と研修生の星野秋氏（右）

概要

◆氏名・所在地

星野 秋 新潟県新発田市

◆研修年

令和4年8月～令和4年10月 : 野菜農家
令和5年5月～令和6年5月現在 : 果樹農家

◆研修内容

ぶどうのハウス栽培や野菜の露地栽培の研修に取り組む。

1 就農相談までの背景

転職先を検討している間に、中山間地にいる親戚の自家栽培の畑を手伝いながらハローワークに通っていた時、同じ中山間地でぶどうやりんごを栽培する農家がいることを知った。以前から果樹栽培に興味があり、農地さえ確保できれば自分でも果樹経営ができるのではないかと思い、ハローワークに相談したところ「新潟県農業経営・就農支援センター（旧青年農業者等育成センター。以下「支援センター」という。）」を紹介された。

2 相談内容

体験研修が可能な受入先農家や栽培品目等について相談したところ、農業体験したいと考えていたぶどうやりんごを栽培する中山間地の果樹農家を紹介されるが、時期的に体験する作業が無いということで断念し、別に紹介された野菜農家の下で栽培研修をした。

しかし、研修後も果樹農家で研修したいという気持ちが変わらなかったため、普及指導センターに相談したところ、支援センターを通じて、令和5年5月から希望した果樹農家で研修を開始した。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

農地取得や資本装備、就農計画作成について、関係機関連携のもと、相談対応を行った。

●研修機関等の紹介

自宅から通える果樹農家で研修したいという要望であったが、季節的に作業がなかったため、野菜栽培農家を紹介し、約3か月間研修することとなった。

翌年の春、相談者から果樹農家の下研修したいという申し出があり、研修の受入を調整し、現在果樹農家の下でも研修している。

●関係機関との連携による取組

ぶどうの栽培技術習得のため、普及指導センター主催の経験の浅い農家向けの講座を紹介し、現在も受講している。

農業簿記や経営の能力向上も希望しているため、今後は、県や農業係団体主催の能力に応じた研修を紹介していく。

●就農市町村の決定

農業委員会との相談により、農地の貸借について一部内諾を得ているため、相談当初から希望しており現在の居住地でもある新発田市での就農を予定している。



研修受入農家とぶどうの本摘粒作業



一房々々丁寧に作業を行う様子

今後の意気込み

現在も引き続き研修受入農家で果樹等の栽培研修を受けながら農地の賃借のために農業委員会に提出する書類の準備を進めています。

農地面積が確定したら青年等就農計画の作成に取り掛かり、令和7年4月の就農を目指します。

専属スタッフ所感

就農相談に訪れる方の多くは、まったく農業の経験がありません。そのような方には、まず、農業体験をおすすめしています。しかし、稲作が主体で、冬期間、積雪により野外での農作業が出来ない当県においては、思い立って、直ぐに農業体験をするということが出来ない場合があります。

まずは、何をどこでしたいのか。そのために何から始めるのかを明確にして、それを実践すれば、就農への第1歩がスムーズに歩みだせると思います。



研修で白ネギの生育状況を確認する高田華衣氏（右）

概要

◆氏名・所在地

高田 華衣 富山県富山市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

とやま農業未来カレッジ（以下、「カレッジ」という。）にて1年間、栽培技術や農業経営などの講義、作物実習、機械演習等に取り組む。

1 就農相談までの背景

学校卒業後、派遣労働者として工場働き始めたが、アパートと会社の往復のみの生活で、人と会話することも少なく、単調な生活に悩んでいた。

そんな時、幼少期の祖父とのタケノコ掘りや畑作業が楽しかったことを思い出し、農業に関心を持つようになった。その後、市民農園等に参加するが、日ごとに農業への思いが強まり、SNSで情報を調べたところ、とやま就農ナビを見つけ、「富山県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談をした。

2 相談内容

農業に強いあこがれを持つが、農作業の経験は趣味程度であった。このため、①どうすれば農業の知識を高め、職業としての農業をはじめられるか、②小さい子供がいるが、就農に向けた研修などに参加することが可能かなど、細かいことまでさまざまな相談を行った。

3 支援内容

●就農に向けた相談対応

就農専属スタッフより、参考となる成功事例の紹介、研修制度や研修期間中の支援策等を説明した。

●農業体験研修で「農業を知る」

農業へのチャレンジに失敗しないためには、農業とはどういうものかを知ることが大切との考えから、「農業とはどんな仕事であるか」や「就農に向けどんな準備が必要か」を知っていただくため、短期間の就農体験を紹介した。相談者は施設園芸農家で5日間、収穫・調整作業などを体験し、就農への思いが強まった。

●とやま農業未来カレッジでの

体系的知識・技術の習得支援

農業経験や知識のない方でも、農業法人に就業し、OJT研修で技能を身に付け活躍される方も多くいるが、相談者は、自営を含めたいろいろな可能性を検討したいとの希望があった。このため、体系的に知識と技術が学べるカレッジでの通年研修を勧め、座学講義のほか、栽培実習や農家派遣研修、機械演習などにより、基礎的・実践的な知識と技術の習得を支援している。

●関係機関と連携した就農支援

カレッジ卒業後の就農に向け、就農専属スタッフ等がカレッジと連携して、本人の意向を踏まえつつ、就農計画の実現性を見据えた助言を行うなど、就農の定着が図られるよう支援している。また、就農先や農地の確保等については、カレッジのほか、農林振興センターや市町村等と連携を密にし、関係機関が一体となってサポートしていくこととしている。



カレッジでの実習の様子

今後の意気込み

相談前は、農業に詳しい知人もおらず、SNS等で情報収集していましたが、自分だけの情報収集には限界があり、就農には程遠い状況でした。しかし、何度も就農相談することで、就農に向けた道筋が明らかとなり大変助かりました。

成功事例を学べたほか、カレッジでの研修を勧められるとともに、その間の生活支援策等の情報も得られたことが、カレッジ入学への決め手となりました。

カレッジでは、志を同じとする仲間にも恵まれ、協力し合い知識・技術を高めていきたいと思います。

子供も自然が大好きなので、いずれ一緒に農作業ができる日を目標に頑張っていきます。

専属スタッフ所感

支援センターでは、随時、就農専属スタッフが、農業経験の状況や相談者の希望なども踏まえ、相談に応じています。

相談者は、就農に向けカレッジの研修に意欲的に取り組んでおり、農業が職業となり、地域農業の担い手となるよう、関係機関と連携し、就農をサポートしていきます。



木村鳳喜氏

概要

- ◆氏名・所在地
木村 鳳喜 石川県羽咋市
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
すいか0.6ha、だいこん0.6ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
すいか・だいこんの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

前職では飲食業に携わってきたが、妻から「農業経営を行い、将来的には自身で栽培した野菜を提供する飲食店を開くのはどうか」という話があり、食に関わっていたことから農業に大きな魅力を感じ、本格的に就農を考えるようになった。

妻の実家がある石川県には、就農希望者に必要な技術や知識を習得できる「いしかわ耕稼塾」があるということを知り、開講者の「石川県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」の就農相談窓口である（公財）いしかわ農業総合支援機構に相談した。

2 相談内容

「石川県羽咋市で農業を始めたい」と大まかな構想があったので、自分なりに情報を集め、就農品目を羽咋市の主要野菜であるすいかとだいこんに決定した。

しかし、農業の知識がほとんどなかったため、技術面や資金面の課題に加え、本格的に営農を開始するまでの研修計画や生活資金面について相談したい。

3 支援内容

●いしかわ耕稼塾での研修

いしかわ耕稼塾「本科」※に入塾し、栽培実習や講義（栽培・経営）等を通じて、自営就農に必要な基礎的な技術や知識の習得を図った。

※月～金曜日まで、年約240日間、栽培実習や講義を受ける研修コース。

●関係機関との連携による取組

支援センターは、支援センターのサテライト窓口である普及指導センターやJAはくい、市役所といった関係機関と研修生の意向を共有しながら、関係機関と協力してJAはくいそさい部会（以下「部会」という。）への受入れに向けて働きかけを行った。その結果、JAはくいそさい部会において農家派遣研修を実施することとなった。



関係機関と産地での受け入れに向けた打ち合わせ

●農地の確保支援

当初、農地の確保は困難であったが、農家派遣研修を契機に部会とつながり、相談者の受入れに合意が得られた。その後、徐々に人脈ができ、部会役員が地権者との調整役を買って出ることになり、一部の部会員から農地の利用権を譲り受けることができた。

●機械の導入支援

補助事業を活用して機械を導入するにあたって、普及指導センターの普及指導員から営農計画等のアドバイスを受けながら、羽咋市役所等に相談し、事業活用をサポートした。



支援事業活用のための打ち合わせ

今後の意気込み

就農までにすべきことが多く、実際に支援センター等の支援機関に何度も訪れて相談したことで希望した時期に就農することができました。

農業経営はまだ手探り状態ではありますが、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

外部からの自営就農は、経営開始に向けた準備に加え、部会や産地への受入れを並行して進める必要があり、関係機関との連携が必須です。基本的な技術や知識を研修で習得しながら、就農地の状況に合わせてアレンジする作業は、経営継続にもつながると思います。

相談者は、就農への熱意があり、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

産地の担い手となっていただけるように、今後も関係機関とともに、引き続きフォローしていきます。

概要

- ◆氏名・所在地
和多田 裕己 福井県三方上中郡若狭町
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
ウメ 1.8ha
- ◆従業員数
パート・アルバイト 5名
- ◆事業内容
青梅の栽培出荷、白干梅・梅干しの加工に取り組む。



ウメの土用干しをする和多田裕己氏

1 就農相談までの背景

会社員として勤めていた頃に、同級生が梅農家として活躍している話を聞き、就農への思いが芽生えた。約3年間、同級生のお手伝いをしながら栽培技術を学ぶとともに借り受けることができる樹園地を探し、確保する見込みが立った。就農準備は整いつつあったが、経営開始に必要な知識や就農計画に不安があったため、同級生から「福井県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を紹介してもらい、相談した。

2 相談内容

経営開始にあたって、簿記や青色申告等の作成に不安があるため、会計・税務処理など経営管理の基礎的な知識の習得方法を知りたい。
また、就農計画作成方法や加工品（梅干し）の直販方法、生産安定のための主要技術となる剪定方法について学びたい。

3 支援内容

● 営農開始に向けた相談対応

経営管理について、簿記記帳の知識を習得するための研修の受講や農業会計ソフトの活用を提案した。また、就農計画について、希望所得に準じた経営規模に見直しするよう、経営規模の拡大や設備投資計画作成等を助言した。

● 関係機関との連携による取組

規模拡大に向けた樹園地の確保や、農業機械の更新に活用できる融資について、町やJAから情報提供を行った。今後、規模拡大を行うにあたって必要となる雇用の確保や新規就農者向けの補助事業の活用について、支援センターから説明を行った。

● 加工品販売や生産技術習得に向けた支援

梅干しを高価格で販売していきたいという構想があったが、梅干しの製造には漬物製造業の営業許可が必要であることや、販路がないことから、まずは許可が不要な白干梅のJA出荷に集中し、その後、独自性がある梅干しの販売の経営にシフトするよう助言した。
生産技術について、普及指導員が剪定技術を現地で指導した。



相談対応の様子



剪定講習の様子

今後の意気込み

支援チームの皆さんのおかげで、充実した就農計画の作成や経営管理の手法について習得することができました。経営開始に対する不安はまだ大きいです。支援チームの普及員さん、町の就農担当者さん、JA営農指導員さんからたくさんの助言をいただき、大変感謝しております。経営が安定していくよう最大限の努力をしていきたいと思ひます。

専属スタッフ所感

福井県若狭町では、福井梅産地の担い手確保のために、新規就農の受け入れ体制整備等に力を入れています。今回のケースが就農モデルとなり、福井梅の担い手確保が進んでいくよう、相談者の就農後のサポートをチーム一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。



再生した農地での小麦の収穫風景

概要

◆氏名・所在地

あいエンタープライズ株式会社 代表取締役 浅井 義樹
岐阜県大垣市（参入地：関ヶ原町）

◆参入年

令和5年9月

◆経営規模

小麦 0.3ha

◆役員数

1名

◆事業内容

小麦を中心に生産拡大しながら新しい農業の創出を目指す。

1

就農相談までの背景

相談者である代表者は、前職で閉鎖型植物工場の建設・運営等に携わり、持続可能で、魅力的な農業の創出に取り組みたいと考えていた。加えて、国内の食料安全保障への貢献が必要と考え、農業参入を決意した。

「岐阜県農業経営・就農支援センター（ぎふアグリチャレンジ支援センター。以下「支援センター」という。）」の相談窓口は、本社が他県にある企業（相談時：名古屋市）でも岐阜県で参入を考えている場合には対応してもらえることを知ったため、相談を行った。

2

相談内容

システムエンジニアとして得た経験や技術、課題を農業経営に生かして、若い人達が「農業はカッコいい！」と思える、魅力ある未来の農業を創出すべく、貸借可能な農地を探していた。

農業参入に必要な情報の収集や、自ら作成した営農計画の妥当性、農地の確保等について支援センターへ相談した。

3

支援内容

●農地の確保に向けた相談対応

就農専属スタッフが、企業の栽培予定品目（小麦とそば）の生産に適する参入地域や、農地の取得方法などの、農業を始める上で必要な情報を提供した。

また、遊休農地等の条件不利地を積極的に活用することにより、地域での信頼や協力体制を得やすくなることを助言した。

●研修機関等の紹介

栽培予定品目の研修を受け入れる機関がなかったため、支援センターは、参入予定地域で生産を行っている集落営農法人を紹介し、農業用機械の借用などを含めた協力体制を構築した。



地権者説明会

●関係機関との連携による取組

支援センターは、（一社）岐阜県農業会議、県農林事務所等の関係機関と情報共有し、企業の農業参入に積極的な市町村を探すとともに、市町村や農業委員会の協力のもと、参入予定地域や必要とする農地を確保し、相談者に提示した。

●参入市町村の決定

支援センターが、企業の農業参入に積極的な関ヶ原町を選出し、企業に紹介した。同町や町農業委員会と連携し、地権者説明会を開催するとともに、農地中間管理機構が遊休農地を借受け、草刈りを実施・再生した上で、企業に貸付けた。（令和5年度貸付：3ha）



遊休農地の再生作業

今後の意気込み

支援センターへの相談を契機に、集落営農法人や町、関係機関からのサポート体制が構築され、遊休農地での栽培課題解決にも取り組んだことから、令和6年産小麦は県の平均単収を確保することができました。

今後も、地区の皆さんに恩返しできるよう各種技術等の向上に励み、栽培規模を拡大し、食料自給率向上に貢献するとともに、自らが目指す新しい農業の創出に力を入れて参ります。

専属スタッフ所感

農業参入の相談に来る企業の多くが、栽培技術・経験・知識がほぼない状況です。このような中、参入企業に現状の課題や農業を始める上で必要となる様々な情報を提供するとともに、長期的な視点に立った経営計画の策定を提案しています。

相談者は、ご自身の経営ビジョンが相談時に明確となっており、こちらからの提案を受けて、自身の経営計画をブラッシュアップするなど、意欲的に取り組まれていました。

地域の中心的な担い手となっていただけるよう、引き続き、経営相談を通じた支援をまいります。



イチゴで就農した福本夫妻

概要

- ◆氏名・所在地
福本 卓也、福本 昌子 愛知県西尾市
- ◆就農年(就農した年月)
令和6年6月
- ◆経営規模
イチゴ 15a
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
J A 西三河いちご部会に所属し、イチゴ栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

マスコミ関係で働いていた30代のときから、夫婦で一緒に働ける農業に興味を持ち、情報収集する中でイチゴを育てたいという気持ちが強くなっていった。

50歳を過ぎてイチゴでの就農を決意し、年齢制限なく、温かく受け入れてくれた J A 西三河いちご部会の「いちごスクール」の研修に参加し、「いちごスクール」の座学の一環で農業大学のニューファーマーズ研修を併せて受講し、就農準備を進めた。

2 相談内容

神奈川県から転居してきたため、自宅だけでなく、農地や施設と併せて出荷調製のための作業場の確保が必要であった。

新規就農者に対する国の支援制度の年齢要件を満たさないことから、自己資金を中心とした就農計画を作成するにあたり、専門的な観点から助言を必要とした。そこで、農業大学校に就農相談窓口がある「愛知県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」及びいちごスクールに相談した。

3 支援内容

●農地や施設等の確保に向けた相談対応

農業を始める上で初期投資を抑えて施設等を確保するため、支援センター及びいちごスクールの担当者は、中古施設の活用方法に関する助言をし、J A 西三河から物件の情報収集をした。その結果、先輩農業者からの紹介もあり、自宅から約5分の所にある本ほ施設や苗場、夜冷庫、作業場がまとめて借りられる物件に巡り合うことができた。

●関係機関との連携による取組

いちごスクールの研修生の育成は、J A 西三河いちご部会と関係機関で組織する産地振興委員会が農業大学校と連携して育成するカリキュラムとなっている。

そこで、J A 及び農家からイチゴ栽培に関する基礎知識と実践的な農業技術を、また、農業大学校で農業経営者としての自立に向けた就農計画の基本を学び、就農計画の具体的な指導を受けた。



福本氏の本ほ施設



スクールでの先輩農業者との座談会の様子

今後の意気込み

関係機関の皆さんのサポートのおかげで、円滑に就農することができました。

また、関連機関で学んだ知識が就農準備の段階で役に立ち、志のある仲間と共にとっても良い環境で充実した研修を受けることができました。

就農後も研修等で培った人脈を通じて関係者の助言を受けながら頑張っていきたいと思えます。

専属スタッフ所感

愛知県の研修受入機関で学ぶスクール生は、ニューファーマーズ研修を併せて受講することで、幅広い知識を得るとともに同じ志を持つ仲間とのつながりができます。また、支援センターからの助言により、就農までの準備を丁寧にを行うことができ、就農計画の具体化がスムーズに進められます。

相談者は、強い就農意欲があり、スクール同期生やニューファーマーズ研修生の中心的存在で、こちらの支援に対しても真摯に取り組まれ、就農準備が順調に進み、就農することができました。

地域の担い手として定着していただけるように、今後も関係機関と連携してフォローしていきます。



吉野岳士氏

概要

◆氏名・所在地

吉野 岳士 三重県多気郡明和町

◆就農年

令和6年3月

◆事業内容

就職先の農業法人にて、水稻・小麦・大豆・野菜の栽培及び農作業受託に取り組む。

1 就農相談までの背景

家庭菜園等での経験から農作物の栽培に親しみを持つ中で、近年、農業者の減少が地域の問題となっていることを知った。いずれは農業者になって将来の地域農業を担うことで貢献したいと考えるようになり、高校卒業後に農業大学校へ進学した。在学中に、「三重県農業経営・就農支援センター（旧農業経営相談所。以下「支援センター」という。）」が開催した「三重県農林漁業就業・就職フェア」に参加する機会があり、支援センターという相談機関を知った。

2 相談内容

将来は自営就農を希望しているが、更なる技術の習得のために大規模農家で経験を積みたいと考えている。

農業大学校では水稻を中心に学んでいるが、将来を見据えて露地野菜中心で水稻も栽培している農家の雇用就農先を紹介してほしい。

3 支援内容

●三重県農林漁業就業・就職フェアでの対応

支援センターが開催した三重県農林漁業就業・就職フェアにて相談対応を行った。相談者は出展企業等のブースを回り、仕事内容や雇用環境といった就業時の情報のほか、就農体験に関する情報を得ることができた。

●研修機関等の紹介

農業大学校の学生向けに開催している就農ガイダンスにおいて、国際農業者交流協会主催の海外農業研修を紹介したところ関心を持ち、研修に参加することとなった。海外では、18ヵ月間にわたり、技術実習を行うとともに、農業経営を学んだ。

●帰国後の雇用就農先の相談対応

帰国後の雇用就農先について相談があったため、支援センターが行っている無料職業紹介事業と連携し、蓄積している情報の中から、雇用就農先候補を選定し、紹介した。

残念ながら相談者の第1希望である野菜中心の農業者とはマッチングできなかったが、水稻中心で野菜も栽培されている農業者に対象を広げ、現在の雇用就農先に相談したところ、将来の独立に当たっては、農業者のネットワークを使い、農地の確保等に協力してもらえらることとなり、雇用就農が決定した。



アメリカでの海外研修の様子



アメリカでの海外研修で苗木を剪定する様子

今後の意気込み

これまで農業大学校や海外研修で学んだことを生かして現在の雇用先で経験を積み、将来は独立して、地域のために農地を引き受けられるような担い手になれるよう、頑張ります。

専属スタッフ所感

相談者は在学中から就農相談に来ており、熱心に情報収集していました。自分の望む道筋を明確にしていたことで、将来の独立に理解のある雇用就農先が見つかり、安心して就農できたように思います。

現在の雇用就農先でも十分に経験を積み、将来につなげていただきたいです。今後も関係機関と連携をとりながらフォローを続けていきます。

概要

- ◆氏名・所在地
高橋 拓磨 滋賀県愛荘町
- ◆就農年
令和6年3月
- ◆経営規模
施設野菜（イチゴ） 0.12ha
- ◆従業員数
家族労働1名
- ◆事業内容
少量土壌培地耕（滋賀県開発）によるイチゴ栽培に取り組む。



高橋拓磨氏

1 就農相談までの背景

前職ではリサイクル事業に携わってきたが、知人の紹介で県外のイチゴ園を見学したことをきっかけに、農業を生業にしたいと考えるようになった。また、農業を始めるにあたり出身地である滋賀県でのイチゴ栽培に興味を持ち始めた。
非農家出身で農業経験もなかったため、地域の相談窓口である「しがの農業経営・就農支援センター（旧青年農業者等育成センター。以下「支援センター」という。）」に相談したところ、支援センター主催の就農準備講座があることを知った。

2 相談内容

就農準備講座に参加し、基礎知識を学ぶとともに、新規就農した先輩の体験談を聞くことで、本格的にUターン就農する決意が固まった。
しかし、**ゼロから新規就農をするためには、就農までの道筋を具体化させることが必要**だと考えたため、農地の確保や栽培技術の習得等について相談したい。

3 支援内容

●就農までの道筋の具体化

当初からイチゴ栽培での就農を希望されていたため、地域で新規就農されている家族経営している夫妻や、社会人を経て県立農業大学校で技術習得された農業者など、**様々な態様でイチゴ栽培を行う4経営体を就農専属スタッフが紹介し、実際に視察訪問することで就農までの道筋を具体化させた。**

●研修機関等の紹介や就農計画の作成

農地確保の見込みができたことから、県開発の少量土壌培地耕のイチゴ栽培が学べる**農業大学校就農科での技術習得を勧めた。**
1年間の研修中においても、**就農専属スタッフが町と連携し、就農計画の作成支援を行った。**

●就農地の決定

出身地ではないものの、視察訪問時に訪れた愛荘町の県指導農業士との縁で、農地を確保することができ、就農に向けた準備を開始することができた。



育苗準備



相談対応の様子

今後の意気込み

支援センターから紹介された農業大学校で安心して就農のための準備と農業を生業として生活していく仲間に出会えたことが大きいです。人脈や仲間づくりのためにも農大に通って本当によかったです！！
就農地でも近くにいる指導農業士や農業大学校OBなどの諸先輩に支えられています。

専属スタッフ所感

就農希望者の方は非農家出身者が大半で、その多くはゼロからのスタートになります。
相談者は、就農に向けて視察訪問をするなど、具体的な行動に移されたことで、農地を確保できたことから円滑に研修や就農につなげることができました。
地域の担い手となっただけのように、今後も引き続きフォローしていきます。



実践研修を始めたK氏（左）と
技術指導者としてサポートする農業委員（右）

概要

◆氏名・所在地

K氏 京都府南丹市

◆就農年

令和5年10月

◆経営規模

シュンギク 0.05ha、伏見トウガラシ 0.05ha、トマト 0.03ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

伏見トウガラシや葉物野菜の施設・露地栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

祖父母が大阪府の実家で農業をしており、農業への親しみを感じていたため、農業を専攻していた大学院を卒業後、会社で研究職に従事しつつ、土日には祖父母の農業を手伝っていた。

このような中、自分自身が経営して農業をやりたいという思いが強まり、圃場が確保・拡大するために農村での移住就農を考えるようになった。また、農作業は経験していたものの、自営就農するだけの栽培技術や経営ノウハウはなかったため、研修を受けて基礎から始めることが必要と考え、情報収集を始めた。

民間の就農イベントで「京都府農業経営・就農支援センター（京都農林水産業ジョブカフェ。以下「支援センター」という。）」を知った。

2

相談内容

実家から比較的近い「京都府内での就農」を目標として、栽培技術と農村での生活を学ぶため、京都府独自の研修制度である「担い手養成実践農場整備支援事業」（就農受入地域で2年間の実践的な研修を行った後、その農地で経営を開始することができる制度）を活用して、受入先の地域を探したい。

当面はその地域で一般的に栽培されている野菜の栽培技術を身につけ、一定の自信がつけば、以前から作っていたトマト栽培などにも挑戦していきたい。

3

支援内容

●就農地の選択支援

相談者は京都府内ならば就農する地域にこだわりはないため、より多くの地域のことを見聞きし、就農地を選ぶ検討材料にしたいという意向であったため、就農専属スタッフが、農業委員等の地域リーダーと調整し、4市町6地域を個別に現地案内した。



実践農場のハウス内で普及指導センターの職員から指導を受けるK氏

●就農地の決定

訪問した6地域のうち、南丹市園部町大戸地区で就農を決意した。南丹市は空きハウスが利用できることやハウス新設に対する支援が手厚いこと、実践農場の設置要件である農地及び技術指導者、農村地域での生活や習慣等をアドバイスする後見人の確保が確実であったことなどが決め手となった。

●関係機関との連携による総合支援

就農専属スタッフが、大戸地区を担当する南丹市農業委員や南丹農業改良普及センター、京都府南丹広域振興局、京都府農業会議現地推進役等の関係者と連携して、相談者の支援を行い、担い手養成実践農場の設置が決定した。

農業委員が後見人に就任し、K氏と担い手養成実践農場の設置に向けて、協議していくこととなった。

今後の意気込み

就農活動を始めたときに、就農専属スタッフが積極的に現地案内をセットしてくれたことが、大きな励みになりました。

いろいろと試してみたいことはありますが、まずは地域に馴染み、技術指導者や関係機関の方のアドバイスを謙虚に受け入れて、自立できるだけの技術と経営ノウハウを習得することを当面の目標に頑張ります。
地元と関係機関の方々には大変感謝しております。

専属スタッフ所感

実家の農業を見てこられたこともあり、農業の厳しさは十分に理解されていたと思います。「家族経営でできる規模の自営農業」というビジョンはキッチリと定めておられましたが、就農地を探すときも、作物を選ぶときも、夢と現実をしっかりと区別され、現実路線で準備を進めていかれたことが功を奏した秘訣です。

着実な経営を心がけて、地域の中心的な農業者に育ってほしいと期待しています。



直営いちご農園

概要

◆氏名・所在地

株式会社近鉄百貨店 代表取締役 梶間 隆弘
大阪府大阪市（参入地：大阪府河南町）

◆参入年

令和5年10月

◆経営規模

いちご 0.41ha（うち大阪府河南町 いちご 0.41ha）

◆従業員数

役員13名 正社員1,511名（2024年2月末時点）（うち大阪府河南町 正社員1名）

◆事業内容

いちご栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

（株）近鉄百貨店では ESG（環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance））に配慮した理念として、『地域に寄り添い、地域といきる』を掲げている。その理念を実現するための取組の一環として、近鉄沿線地域の河南町での農業参入を検討し、地元の普及指導センターを通じて「大阪府農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談することとなった。

2 相談内容

河南町で農業参入を考えているが、**農地確保に向けた手続きや栽培技術の専任スタッフを置くに当たり、いちごの管理技術研修を受けられる場所**について、相談したい。

3 支援内容

●いちごの栽培技術研修

相談者に適した研修先として大阪府が実施する「**南河内いちごアカデミー**」を紹介し、同社の栽培担当者が令和4年9月から令和5年3月までいちご栽培に特化した研修を受けた。

その後も、地域のいちご農園で実施研修を受け、更にいちごの栽培に関するノウハウを深く学んだ。

●経営開始後の定着支援

令和5年10月に営農を開始後は、就農専属スタッフが現地巡回を行い、就農定着を支援している。

ほ場管理及び栽培ベッド等の状況や苗の状態・定植、栽培管理のほか、収穫前にはサイズ分け及び規格外品の活用方法等について助言するなど、きめ細やかに相談に応じている。

●農地確保の取組・就農地の決定

支援センターの就農相談窓口（企業参入部門）を受託し、農地中間管理機構の役割も担っている大阪府みどり公社が、参入情報の提供や農地貸借の手続き等の支援を行い、当初からの希望地であった河南町で農地の貸借（令和5年3月から10年契約）を受けた。



いちごハウスの外観

今後の意気込み

特に農地の確保については支援センターに多くの農業参入にあたって、農地の確保と栽培技術の習得が課題となっていました。支援センターの窓口で相談することで就農の実現につなげることができました。

ご支援をいただき、希望地で農地を賃借することができ、大変感謝しています。

専属スタッフ所感

相談者は近畿圏を中心に10店舗の百貨店を運営しており、すでに販売面で大きな強みを有していました。

加えて、栽培技術についても研修や実地研修を受けるなど、積極的な習得に努められ、早期の経営安定が見込まれます。

今後も経営相談を通じてフォローしていきます。



高橋未来氏

概要

◆氏名・所在地

高橋 未来 兵庫県神戸市

◆就農年

令和6年4月

◆事業内容

就職先の農業法人にて肉用牛（繁殖肥育一貫経営）に取り組む。

1 就農相談までの背景

兵庫県内の農業高校を卒業後、北海道新得町の研修施設に入校した。北海道の牧場が地元である兵庫県の牧場で就職するか悩んだ末、**生まれ育った地域に貢献したい**の気持ちが強くなり、**地元に戻ることを決意**した。

兵庫県で**肉用牛（但馬牛）牧場での雇用就農を希望**していたところ、「兵庫県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を知った。

2 相談内容

肉用牛（但馬牛）牧場での雇用就農を希望していたが、**業務内容だけでなく就業規則や社会保険、福利厚生等の環境面も重要視**していた。

また、**販売や加工等の事業にもチャレンジしたい**の思いがあった。専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、雇用就農先の探し方や研修制度等について相談したい。

3 支援内容

●研修機関等の紹介

就農専属スタッフが**就農希望地や雇用条件等、相談者の希望を聞き取り、希望条件に適した農業法人の情報**を提供した。また、**短期間のインターンシップ研修へ誘導し、農業法人と相談者のマッチング**を行った。



支援センターの相談窓口



支援センターでの就農相談の様子

今後の意気込み

はじめに県下の肉用牛（但馬牛）牧場の情報をたくさん提供いただき、面談を繰り返しながら雇用就農先を検討しました。的確なアドバイスをいただき、インターンシップ研修から実際の雇用就農まで一貫した支援をいただけたことに、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

相談者は農業高校卒業後に北海道で研修をされ、就農におけるビジョンが明確化されており、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。今後も引き続きフォローしていきます。



トマトを収穫する鐘ヶ江氏

概要

- ◆氏名・所在地
鐘ヶ江 まどか 奈良県広陵町
- ◆就農年
令和6年3月
- ◆経営規模
野菜（トマト等） 0.2ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
ハウスでイチゴとトマト栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

自分が育った奈良県で自営業をしたいと考える中で、農業という選択肢があった。農業は作物を栽培するところから加工・販売まであり、日々の創意工夫を重ねることで商品の高評価に繋がってくる、とてもやりがいを感じる分野であると思い、就農したいと考えるようになった。

しかし、何から始めれば良いか分からなかったが、ネットなどで情報収集したところ、普及指導センターが「奈良県農業経営・就農支援センター」の就農相談窓口であることを知った。

2 相談内容

「奈良県で農業を始めたい」という思いがあったので、自分なりに営農までの計画を作成するためにネット等を活用して情報を集め始めた。

しかし、農業の知識がほとんどなかったため、技術面と資金面の手立てや何から始めたら良いかなど、専門的な観点からの助言が必要だと実感した。そこで、より具体的に営農までの経営計画や資金活用について相談しようと考えた。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

相談者は農業に関する知識がない中、自身で営農までの計画を考えていたが、農業未経験のため、農地の借用や設備投資について、農業を始める上で必要な情報を提供するなどの対応を普及指導センターが行った。

●研修機関等の紹介

相談者に適した、農業の基礎や施設野菜経営を行う上で必要となる技術を栽培実践を通じて学ぶ研修先等の情報を提供し、研修先を決定した。

●関係機関との連携による取組

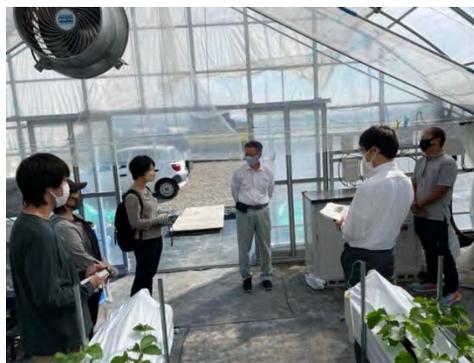
研修先であるイチゴ、トマトの農業者の下で、農業経営者としての自立に向けた取組や考え方について1年間栽培実践研修を受けた。

●就農市町村の決定

栽培実践研修に修了のめどが付き、改めて普及指導センターへ就農先について相談したところ、廃業予定の農業者がいる広陵町を紹介され、農地及び既存施設を借り受けて就農することになった。



就農計画相談対応の様子



研修先で助言を受ける様子

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行って何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

まだ経営開始して間がない状態ですが、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者は事前に就農に関する情報を収集され、就農における考えが明確化されており、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



農業機械操作実習中のO氏

概要

◆氏名・所在地

O氏 大阪府

◆研修開始予定年

令和6年5月

◆研修内容

県農林大学校就農支援センター（以下「就農支援センター」という。）にて、農業技術や知識を学べる5カ月間の研修に取り組む。

1 就農相談までの背景

IT系の会社を経営しているが、その仕事をいつ頃まで続けていかと考える時があった矢先に、**リモートワークと農業の両立**をしている方を紹介するニュースを見たことをきっかけに**農業への興味**が湧き、市民農園を借り、家庭菜園から**農業の勉強を始めた**。

家庭菜園をする中、**本格的に就農を意識**するようになり、農業技術や就農支援、農地貸借について相談できる場所を探していたところ、就農候補地として考えていた和歌山県の就農相談会を知った。

2 相談内容

就農地・移住先として、趣味の釣りで訪れたことがある和歌山県の沿岸市町を候補として考えていたため、和歌山県が主催する**就農相談会に参加**し、「わかやま農業経営・就農支援サポートセンター」に農業の技術及び知識が学べる研修機関や就農にあたっての**県等の支援施策、農地の探し方や確保の方法、就農予定地やその周辺での栽培品目**について、相談した。

3 支援内容

●各種支援制度等の説明

県の研修機関として、県内各地の**産地受入協議会や就農支援センターを紹介**し、各研修機関で行われているカリキュラムを説明した。

あわせて、就農するにあたっての**県等の支援策を紹介**し、また、就農をする段階では地域の情報が必要となるため、改めて市町村へ相談するよう助言した。

さらに、移住候補地における農業の特徴や栽培されている品目について、情報提供を行った。

●研修機関等の提案

相談内容から、農業の基礎から就農に必要な実践的な知識や技術までを学ぶことができる、就農支援センターの「**技術習得研修**」を勧めた。

研修は**5か月間で全25日**行われ、野菜・花き・果樹の栽培方法や、土壌肥料と施肥管理、病害虫の防除と農薬の安全使用、鳥獣害対策等を**講義と実習形式**で学べる内容である。

相談者の就農の意向や**研修と仕事の両立**を考慮した上で、早期に就農を考えている研修生との仲間づくりが出来ることから、**本研修を勧める**とともに、申込みの時期や方法等を説明した。



令和5年度就農相談会での相談ブースの様子



就農支援センターでの研修の様子（O氏と他研修生）

今後の意気込み

就農相談会に参加し、色々とアドバイスをいただきました！

就農はまだ先ですが、研修期間中には栽培品目のことや土壌のこと、地域のことなど、様々勉強していきたいと思えます！

専属スタッフ所感

就農相談に来る方は「農業未経験」または「体験程度」が大半ですが、相談者は、ご自身で積極的に情報収集をしながら、市民農園での農業経験を積むなど、就農に向けてのイメージを明確に持たれていました。

研修が終了し、就農された際には、相談者が考える農業を実現できるよう、フォローしていきます。

概要

- ◆氏名・所在地
長谷川 大起 鳥取県倉吉市
- ◆就農年
令和6年2月
- ◆事業内容
雇用先の農業者の下で、スイカやメロン栽培に取り組む。



メロンの収穫作業を行う長谷川大起氏

1 就農相談までの背景

前職は叔父の経営する学習塾の管理部門を担当する会社員であった。叔父は鳥取県が好きで、頻繁に大山や米子周辺を訪れており、学習塾を共同経営者に預け、鳥取県で就農することを考え始めた。

令和5年春に琴浦町で開催された農業体験会に叔父と参加したところ、農業の魅力を感じ、自分で農業を始めたい気持ちが湧き始めた。

その後、ふると鳥取県定住機構主催の相談会で、「鳥取県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」の相談員と出会った。

2 相談内容

鳥取県での就農という希望はあったものの、産地と栽培品目について決まっていなかったため、鳥取県内の主要な産地と栽培品目について、それぞれどのような特徴があるのか、相談したい。

また、農業に関する知識や経験がほとんどなく、どうすれば農業を始められるかが得られるか、研修制度や行政からの支援内容についても知りたい。

3 支援内容

●産地と栽培品目についての情報提供

支援センターが発行した、新規就農希望者向けパンフレットを元に、全国有数の産地である白ネギやスイカ等の生産実態や人材育成状況、またそれぞれの経営実態を説明した。

●農業体験と農業者との対話の機会の提供

鳥取県内で開催されるスイカ等の産地体験会、支援センターの主催する農業視察研修を紹介した。また、希望に応じて、米子市の若手ネギ農家を訪問し、農場見学や意見交換できる機会を設けた。これらを通じて、具体的な就農イメージの醸成につなげた。

●農業基礎研修の案内

農業未経験であることから、まずは農作業を行う上での基礎となる最低限の知識や技術を身に付けることが必要であった。そこで、県立農業大学校で開催されるアグリチャレンジ科（公共職業訓練）の研修受講を勧めた。

●就職先の決定

アグリチャレンジ科の受講前から、産地と栽培品目の決定を促し、まず希望品目をスイカとすることが決まった。就職先をどこにするかで最後まで迷ったが、農業大学校が設けた雇用先農業者との面談等の結果、大栄スイカ生産者への就職が決まった。



就農相談の様子



農業視察研修で説明を受ける長谷川氏（左端）

今後の意気込み

大栄スイカの産地に入って気づいたことは、皆さん農産物の品質に誇りを持ち、高品質の農産物を生産することこそが収益を確保するという意識の高さです。自分も、いいスイカを作って売っていく、その自信を持つことができるように、師匠である雇用主の技術に近づくことを目指して、頑張りたいと思います。

専属スタッフ所感

就農相談者と初めて出会ってから1年少々になりました。鳥取県の農業に関心を持っておられ、こちらの話を真剣に聞いてくださった姿勢が印象的でした。その後も県内の様々な産地にご案内でき、栽培品目選択の一助になったのであれば幸いです。

相談者は雇用就農によりスイカ栽培を担うようになりましたが、2年後には独立就農の意向とお聞きしています。継続して農業経営の発展をサポートしたいと思います。



堀江伸一氏

概要

- ◆氏名・所在地
堀江 伸一 島根県鹿足郡津和野町
- ◆研修開始年
令和5年9月
- ◆研修内容
農業体験プログラムや産業体験を活用し、有機農業の研修に取り組む。

1 就農相談までの背景

広島県で介護の仕事に携わっていたが、以前より里山暮らしに興味があり、都市で生活することに違和感があった。また、環境問題や食に関心を持っていたことから、農業を仕事にすることを考えるようになったこともあり、子育てが一段落したタイミングで本格的に就農を検討し始めた。
移住先を検討していた中で、以前2年間生活していた島根県で「島根県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」主催の就農相談会が開催されることを知り、参加した。

2 相談内容

家庭菜園程度の知識しかないが、有機農業や自然栽培に興味があり、島根県の西部地域で野菜を中心に農業がしたい。50歳を超え、年齢的にも早く就農したいと考えているが、就農できるのか知りたい。また、移住先の候補や就農に向けた島根県独自の支援制度に関する具体的な情報が欲しい。

3 支援内容

●相談会やミニツアーでの情報提供

「しまね就農相談会」において、就農専属スタッフから就農支援策等を説明した。後日開催された「就農相談ミニツアー」において、県西部の江津市で有機農業を実践する農家を紹介し、圃場見学と意見交換を行った。

●短期農業体験の実施

支援センターの就農相談窓口を担う(公財)しまね農業振興公社が実施する短期農業体験「しまね農業体験プログラム」の受講を勧めた。就農専属スタッフと市町担当者が連携して農業体験先の選定や日程調整、体験時のサポート等を行い、島根県で就農するイメージの醸成を図った。

●関係機関との連携

農業体験プログラムを3カ所まで受けてもらい、それぞれの研修状況を各市町や県農林水産振興センター、J A、(公財)ふるさと島根定住財団と情報共有し、就農に向けて連携して対応した。

●農業体験先の決定

農業体験プログラムを通じて津和野町への移住と就農を決意し、(公財)ふるさと島根定住財団の「UIターンしまね産業体験事業」を活用し、有機農業を営む先輩農家のもとで1年間の研修を実施している。



しまね就農相談会の様子



農業体験の様子

今後の意気込み

就農専属スタッフや町担当者などへの相談を通じて、研修先を紹介いただき、充実した研修を行っています。土づくりから農薬を使わない栽培方法など、自分が目指す農業を楽しみながら勉強しています。

今後は、地域の集落営農法人とも繋がり、高齢化する地域の中で農地を維持し、担い手不足の解消と地域貢献活動にも取り組んでいきたいと考えています。

専属スタッフ所感

就農に関する相談には、生活面や資金面も含め様々な内容がありますが、関係機関と連携して円滑に対応することができました。

農業体験を経て津和野町内での就農が決まっており、地域の担い手としての活躍が期待されます。

今後も引き続き支援センターとして支援を行っていきます。



研修生の松本氏（右）と受入農家の片岡氏

概要

◆氏名・所在地

松本 洋明 岡山県和気町

◆研修開始年

令和5年11月

◆研修内容

ぶどうの栽培技術を習得するために、研修受入農家の下で年間を通じた作業体系、管理技術の習得に取り組む。

1 就農相談までの背景

幼い頃より農業に興味を持っていた。一度は県外企業に就職したが、シャインマスカットを食べる機会があり、そのおいしさに衝撃を受け農業への思いが再燃した。

いろいろ調べる中で、農業は自分の仕事が直接成果に繋がるやりがいのある仕事と感じ、本格的なぶどう栽培での就農を考えるようになった。

移住の相談も含めて和気町役場にお世話になっていたが、スムーズな就農を目指すのであれば「岡山県農業経営・就農支援センター（以下、「支援センター」という。）」での相談を勧められた。

2 相談内容

「ぶどうを栽培していきたい。」と漠然と考えており、就農までの流れや方法についてネット等で情報収集していたが、**農業の知識がないため、就農に向けての技術習得や農地取得、支援制度など、何から始めたら良いかなど教えてほしい。**

また、**専門的な観点**から、就農事例を交えて就農までの資金計画について**具体的なアドバイスを受けたい。**

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

空き家情報やスーパーなどの生活環境については町役場が対応したが、農地や選果等に必要の納屋付き住宅の情報については就農専属スタッフや農業普及指導センターから提供した。

●研修機関等の紹介

ぶどうでの就農を目指していたので、ぶどう栽培の研修を受けられる産地のうち、実家に近いことや、同年代の県外からの新規就農者がいることなどから、和気町での就農研修を紹介した。

●関係機関との連携による取組

研修主体であるJA晴れの国岡山佐伯ぶどう部会が農業技術に関する実践的な研修を実施して、支援センターのサテライト窓口である普及指導センターも定期的に巡回し、技術面や経営面のサポートを連携して行っている。

●就農市町村の決定

令和7年10月末に就農を予定しているが、経営に必要な農地の約半分は見込みがつかっている。就農まで引き続き関係機関と連携し、優良農地が確保できるように支援していく。



相談対応の様子



研修でぶどうの枝管理を実施

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口で専門家に相談することで、具体的なアドバイスを受けることができました。

まだ研修中なので、今後、就農に向け具体的な経営計画などの準備をする際にも、引き続き助言・支援をお願いします。

専属スタッフ所感

農業への熱い思いが伝わってきたので、サポートする側の私たちも精一杯応援することができています。

相談者は「分からないことはすぐに対応」される方なので、周囲の支援者からも温かく見守られています。

支援センターでは、就農時に限らず、経営のステップに合わせた支援を行っていますので、是非継続してご活用ください。



新垣レイキン氏

概要

- ◆氏名・所在地
新垣 レイキン 広島県広島市
- ◆研修開始年月
令和6年4月
- ◆研修内容
ハウス栽培での自営就農の実現に向け、研修に取り組む。

1 就農相談までの背景

2011年来日後、製造業に携わってきたが、祖国に住む両親が農業を行っていたこともあり、農業に興味があった。勤務先を退職したことを契機に、本格的に就農を考えるようになった。

就農に向け情報収集を行っていたところ、「農業を始める.JP」のホームページを見て「広島県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を知った。

2 相談内容

農業を始めたい思いはあったものの、これまでの農業経験は、両親の手伝いや家庭菜園で栽培する程度で、農業に関する知識や技術が不十分なうえ、栽培品目も明確でない状況であった。

このような状況を解決するためには、過去の事例や技術習得の方法など、専門的な観点からの助言が有効だと考え、より具体的な就農までの方法を相談したい。

3 支援内容

●技術習得に向けた相談対応

技術習得を行うためには、①市町等が行う研修制度の活用と、②農業法人等への就職のパターンがあるが、家族構成や住環境などから相談者に合った研修制度を提案するなどの相談対応を、就農専属スタッフが行った。

●研修機関等の紹介

相談者は現在の生活環境に満足していることから、就農専属スタッフは居住地に近い研修先の情報を提供するとともに、紹介した研修先のより詳しい内容を把握できることから、広島県が実施する「就農・応援フェア」への参加を助言した。

●研修機関の決定

相談者は就農・応援フェアに参加し、居住地に近い「広島市農林水産振興センター」が実施する研修の受講を決定し、申込・審査を経て、令和6年4月から研修をスタートしている。

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携している広島市農林水産振興センターや広島市役所などの関係機関が技術習得の研修だけでなく、農地の相談などの支援を行っている。



就農相談の様子



研修の様子

今後の意気込み

支援センターへの就農相談を契機に、夢の実現に向けた第一歩を踏み出すことができました。

今後も携わっていただいた関係者の方に助けていただきながら、自ら農業を始められるよう1日も早く知識や技術を身に付けたいと考えています。

専属スタッフ所感

相談者は「農業を始めたい」との強い思いから、支援センターへの相談や就農・応援フェアへの参加など、積極的に情報収集するとともに、自ら「外国籍でも農地の賃借契約の可否を確認する」など、意欲的に取り組まれました。

将来の夢である就農を実現できるよう、困ったことなどの相談があれば関係機関と連携してフォローしていきます。



農業大学校（就農支援塾）で研修中の末永氏

概要

◆氏名・住所

末永 大介 山口県防府市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

「農業大学校（就農支援塾）」において、作物の栽培技術や農業機械操作に関する実践的な講義や研修を受けている。

1 就農相談までの背景

生家が兼業農家であったため、いつかは自分が何らかの形で農地を管理しようと考えていたところ、若い世代が新規就農者として活躍するニュースを見聞きし、自分も専業で本格的に農業を始めたいという思いが芽生えた。

しかし、自分自身の農業に関する知識や経験が少なく、就農への準備不足と不安を感じたため、「山口県農業経営・就農支援センター」に相談した。

2 相談内容

国や山口県のホームページ等で情報収集をする中、栽培技術の習得方法や栽培品目選定のポイント、自分が活用できる事業制度などについて、疑問や不安が生じていたため、就農専属スタッフに相談した。

また、農業大学校が主催する社会人研修（就農支援塾）の概要と参加手続きについて、助言を得たい。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

営農に向けたビジョンは相談者自身も描いており、計画策定に必要な情報も入手できていた。しかし、面談を通して、就農に必要な技術に不安を抱えていることが浮き彫りとなったため、就農専属スタッフから就農前の技術習得を提案した。

●研修機関等の紹介

相談者の同意の下、長門市や長門普及指導センターと情報を共有し、栽培技術研修と座学を学ぶことができる農業大学校の社会人コース（就農支援塾）の概要と参加手続きについて説明した。

●関係機関との連携による取組

農業大学校において、作物の栽培技術や農業機械操作に関する実践的な講義・研修をながら、利用可能な事業の導入を想定した経営計画などの検討と策定を進めている。

●就農市町村の決定

農業大学校での研修終了後は、長門市内で水稻やすいかな等を栽培する農業法人での就業を予定している。

また、雇用就農を介して経験を積み、十分な知識と技術を得るなど、農業に対する自信がついた段階で、自営することも視野に入れている。



農作業機械による演習の様子



イチゴ施設で講義・研修を受ける様子

今後の意気込み

最初は「農業をやりたい」という思いばかりが強く、何から始めたら良いかも分かりませんでしたが、就農専属スタッフの方々に親身に相談に乗っていただき、就農へ向けての具体的な道筋がイメージできました。

独立就農が実現できるように頑張ります。

専属スタッフ所感

相談者は、自身で考えて就農イメージを描いておられ、経営計画に必要な情報も一定程度準備されていましたが、栽培技術に不安を抱えておられたため、就農前の研修をご案内しました。

就農に向けた研修は始まったばかりです。就農後の定着が極めて重要ですので、今後も普及指導センターなどの関係機関を交え、フォローしていきます。



ミニトマトを収穫する原氏

概要

◆氏名・所在地

原 時人 徳島県阿波市

◆就農年

令和6年4月

◆事業内容

独立就農を目指して農業法人で雇用型研修を受けている。

1

就農相談までの背景

徳島県出身であり、県内の学校を卒業後、大阪府で電気工事士として働いていたが、祖母の農業を手伝った経験から、いつか徳島県に帰ってきて、農業を仕事にしたいとの思いがあった。農業を仕事にすることは家族から反対されていたが、時間をかけて思いを伝えていく中で、家族も賛成してくれるようになったため、ホームページで知った「大阪府農業経営・就農支援センター」に相談した。

2

相談内容

祖母が阿波市でミニトマトやナス、レタス等を栽培し、JAに出荷していたので、その経営を引き継いで自営就農したい。しかし、農業の経験が少なかったため、ミニトマト等の栽培技術を習得したい。

3

支援内容

●関係機関との連携による取組

相談者は住居のあった大阪府農業経営・就農支援センターと、就農希望地である阿波市役所に就農相談をしたところ、「徳島県農業経営・就農支援センター」を紹介された。

●研修機関（農業法人）の紹介・支援

相談者は阿波市での自営就農を希望していたため、徳島県農業経営・就農支援センターが阿波市内でミニトマト等を生産している（株）INITTIUMを紹介した。「とくしま就農スタート研修事業」と「雇用就農資金」を活用し、雇用型研修を実施することとなり、就農定着まで支援を継続する。



（左）指導者の米田博紀氏、（右）原時人氏



（左）株式会社INITTIUM 代表取締役 井口賀夫氏、（右）原時人氏

今後の意気込み

現在は、ミニトマトの収穫・誘引・葉かき作業の研修を受けており、スピードを改善し、効率を上げていくことが必要だと考えています。

祖母の農業経営を引き継いで、いずれは規模拡大するとともに、地域に根ざした農業経営をしていきたいと考えています。

専属スタッフ所感

相談者から聞いた「人と人の距離が近い中で、生活をしていきたい」との言葉が印象に残っています。農業は農地に働きかけて生計を立てていくため、土地と地域に根ざすことが必然的に求められます。このことから、相談者には自営就農の適性があると感じました。

転職やUターンで自営就農を検討される相談者は多いです。その場合は、まず家族と話し合ってもらい、就農への理解と協力を取り付けることが重要になります。



西浦氏（右）と森田氏

概要

- ◆氏名・所在地
西浦 万理・森田 皆子 香川県木田郡三木町
- ◆就農年
令和5年4月
- ◆経営規模
イチゴ 0.17ha
- ◆従業員数
パート・アルバイト 9名
- ◆事業内容
イチゴの高設栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

西浦氏は、前職で責任ある仕事を任され充実した日々を送っていたが、働き詰めの毎日に疑問が生じ、「30歳になったら心の底からやってみたい仕事に就く。」という目標を立てていた。

同僚で実家が兼業農家の森田氏からの提案や、テレビを見て訪問したイチゴ農家と話をすることで、やってみたい仕事がイチゴ栽培をする農業経営になった。そのため、新規就農の方法についてネットで調べたところ、「香川県農業経営・就農支援センター」に相談窓口があることを知った。

2 相談内容

一緒に農業経営を行う予定の森田氏の出身県にあるイチゴ栽培をしている農業者の下で研修を行い、当初はその県内での就農を検討していたが、理想とする農地が見つからず、就農地を近隣県に広げて探したい。

しかしながら、香川県はこれまで縁がない地域であるため、就農に向けて具体的にどう進めていけばよいかを相談したい。

3 支援内容

●就農候補地提案や就農に向けての相談対応

就農専属スタッフがWEB相談により対応を行った。西浦氏と森田氏はイチゴ栽培で就農する決意が明確であり、その条件に適した自然環境や経営ビジョンに合った産地として、三木町での就農を提案した。電話対応を中心に月1回程度、ちょっとした相談から進捗状況の確認まで、情報交換を行いながら就農に向けての準備を進めた。

●研修先の紹介

香川県では、栽培技術の指導や就農に向けての助言等を行う農業者を「新規就農者の里親」として登録しており、就農希望地に近く、移住就農希望者を受け入れた経験があり、イチゴ経営を行う上で適切な指導が行える里親を研修先として紹介した。



就農専属スタッフによるWEB相談の様子

●就農地の決定

農地中間管理機構を通じた農地貸借等を紹介したことから、西浦氏と森田氏は現地で農地集積専門員に相談しつつ、地域のイチゴ農家等様々な方と交流を深めていった。その中で、理想とする農地の候補が見つかったため、農地貸借の契約を結び就農地を決定した。

●関係機関との連携による取組

栽培施設の導入において、補助事業の対応は普及指導センターが、融資や詳細な事業計画の対応は伴走機関である株式会社日本政策金融公庫高松支店が中心となって実施し、施設栽培での就農で特に懸念材料となる資金面の課題解決に向けて支援した。



研修先の有限会社SSK 佐々木社長とともに

今後の意気込み

愛情を込めて育てたイチゴを多くの方に召し上がっていただきたいので、系統出荷のみならず、農園での直接販売もおこなっています。SNSでは、栽培の様子や農園の雰囲気や情報を発信しているので、私たち自身や農業のことをもっと知っていただきたいです。

安定した経営が地域の雇用創出に繋がると信じ、地元の方に受け入れてよかったと思っていただけるように、イチゴづくりに邁進します。

専属スタッフ所感

相談を受けた時期がコロナ禍だったため、WEBや電話での対応が主でしたが、イチゴ生産現場への訪問など就農専属スタッフからの助言をきちんと実行し、訪問先からつながった様々な人とも積極的に交流して人脈を広げていました。見ず知らずの土地で、高額な初期投資を要する施設園芸での就農を成し遂げたのは、お二人の強い思いと行動力によるものと感じています。

地域のけん引役となる担い手として活躍していただけるように、経営発展に向けた支援を続けていきます。



崎山祐介氏

概要

◆氏名・所在地

崎山 祐介 愛媛県松山市

◆研修開始年

令和5年6月

◆研修内容

柑橘（いよかん、せとか、カラマンダリン等）やアボカド等の栽培技術と農業経営に関する知識の習得に取り組む。

1 就農相談までの背景

前職では福祉関係の仕事に携わってきたが、父親が病気で体調を崩して、経営規模を縮小したため、荒れた園地を目の当たりにした時に、父の園地の維持・再生をできたらと思い、本格的に就農を考えるようになった。

基本的な農作業が何も分からないため、就農について相談できるところを調べたところ、「愛媛県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を知った。

2 相談内容

幼い頃から収穫作業は手伝っていたが、一から農業を始めるには、自分自身の知識の無さを痛感し、どうしたら就農できるかをネット等を活用して情報を集め始めた。

農地はあるものの、農業の知識がほとんどなかったので、「技術習得をするために、どうしたらいいか」、「研修を行っている機関はないか」について相談した。

3 支援内容

●研修機関等の紹介

相談者は、福祉事業所で勤務している時に、働きながら研修を受けることができる場所を探していたため、農業大学校や父親の農地がある地域を所轄するJAの新規就農研修センターの研修情報を提供した。

あわせて、相談者の同意の下、就農専属スタッフから研修先の候補となるJAえひめ中央新規就農研修センターへ情報共有した。

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携しているJAえひめ中央において、柑橘における実践的な農業技術や流通・マーケティング等の経営に関する基礎知識のほか、遊休農地解消に必要な重機の使用法や農業機械のメンテナンス、ハウスの設置・解体、最新技術の情報収集等の、農業経営者として自立するためのカリキュラムや優良農家の下での研修を受講した。

また、就農後の規模拡大に向けて、就農候補地区の農業者や行政機関と連携し、就農に向けた農地探しに取り組んだ。



JAで研修を受ける様子



同期の研修生と研修園地（中央：崎山氏）

今後の意気込み

支援センターと研修先のJAが事前に連携していたので、スムーズに研修機関が決まりました。

研修は実践的で、就農してすぐに役に立つ内容です。また、同期の研修生も多く、就農後も相談できる仲間となりました。

就農後は、父親の園地に就農しますが、遊休農地を解消するとともに、経営が安定したら、近隣の遊休農地を再生し、経営規模を拡大したいと考えています。

専属スタッフ所感

近年、就農相談に来る多くの方が、将来（3～5年後）の就農に向けた情報収集段階で、就農候補地や栽培品目からの相談が多くなっています。

相談者は、父親の農地があり、栽培品目が明確で、就農意欲が高かったため、就農後のビジョンを明確に持って、熱心に研修に取り組まれています。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



ナスの収穫を行う谷田氏

概要

◆氏名・所在地

谷田 哲 高知県本山町

◆研修開始年

令和5年12月

◆研修内容

水稻とナスでの就農に向けて、先進農家の下で研修に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

本山町出身で高校では農業コースに在学するなど以前から農業に興味を持っていた。就職に伴い、本山町を離れたものの、いずれは地元に戻りたいと考える中で、豊かな自然を活かし、地域を盛り上げたいと就農を本格的に考えるようになった。

高知県新規就農相談センターへ令和3年4月に相談した際に、一定の準備資金がないと就農が難しいことが分かり、既に準備はしていたものの、2年かけてより十分な資金を用意し、令和5年4月に「高知県農業経営・就農支援センター」へ再度相談をした。

2 相談内容

農業をしたいという漠然な思いはあったので、支援制度や就農の流れを知るためにネットを活用して情報を集め始めた。

しかし、制度の仕組みなどを深くは理解できなかったため、専門的な機関への相談が必要だと感じた。

より具体的な営農までの計画や資金面について相談したい。

3 支援内容

●農地利用や資金面の相談対応

就農希望地は決まっているものの、栽培品目は決まっていないなど、就農までの具体的な計画は作成できていなかったため、産地で推進している品目や研修制度の紹介、農業を始める上で必要な情報の提供を就農専属スタッフが行った。

●研修機関等の紹介

就農希望地が本山町で決まっていたため、同町の農政担当につなぎ、町・J A・普及指導センター等の関係機関で構成される本山町担い手育成総合支援協議会との面談を通じ、水稻とナスでの就農を目指すことに決まった。栽培品目が決まったので、県立の農業研修施設である農業担い手育成センターを紹介した。

●関係機関との連携による取組

農業担い手育成センターで栽培や農業経営に関する基礎研修を経た後、地元の先進農家の下で、農業経営者としての自立に向け、経営ノウハウや栽培技術の習得を図るなど、日々実践研修に取り組んでいる。

●就農地の決定

就農希望地は本山町で決まっており、研修を受けながら、並行して就農するための農地や空きハウスなどを関係機関の協力を得ながら探している。



本山町の産地提案書



関係機関との現状確認の様子

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行って何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

窓口で受けたアドバイスを参考に町へ相談に行ったことで研修受入が円滑に進みました。しっかりと研修を積み、自営就農を目指していきたいと考えています。

専属スタッフ所感

就農相談に来る方の多くが資金不足の課題を抱えています。1度目の就農相談時、相談者は本山町が示す就農に向けた準備資金を準備していましたが、就農をより円滑なものとするため、2年かけて一層の資金を準備されました。令和5年に再度就農相談に訪れた際は、就農に対する強い意欲を感じました。

今後の研修にも意欲的に取り組まれることが期待され、将来は地域の担い手となっていただけるように、引き続きフォローしていきます。



隅田 直樹氏

概要

◆氏名・所在地

隅田 直樹 福岡県北九州市

◆就農年

令和5年12月

◆事業内容

雇用就農先で水稲、ブロッコリー、ミニトマト、玉ねぎの栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

母から家庭菜園をするから一緒にやってくれないかと言われた際に、ちょうど建設業を辞めて時間があつたため、一緒に始めたところ、農業の魅力に気づいた。

将来的に職業として農業をするためにどうしたらいいのか、どこに相談すればいいのかを探していたところ、ホームページをみて、「福岡県農業経営・就農支援センター（福岡県就農支援センター。以下「支援センター」という。）」を知った。

2

相談内容

家庭菜園の経験はあるものの、職業としての農業経営や栽培技術に関する知識がなかったので、農業で生計を立てられるのかを含めて教えてほしい。また、就農についての具体的なアドバイスがほしい。

3

支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

すぐに農業経営を開始することは、栽培技術と資金が不足していることから難しいことを理解してもらい、雇用就農しながら、農業経営や栽培技術を学ぶことが現実的であるなど、就農専属スタッフの経験に基づいた適切な情報提供・提案を行った。

●雇用就農先の紹介

支援センターと北九州普及指導センターとが連携して、相談者に適した雇用先を選定し、就職予定の農業法人と複数回面談した上で、雇用就農を決定した。

●関係機関との連携による取組

相談者が希望する作物を栽培しており、自宅からも比較的近かった北九州市の先進農業法人に就職して、栽培技術取得等を行っているが、更に農業経営者としての自立に向けて、北九州普及指導センターが開催する講習へ参加し、祖父母が所有する農地がある行橋市での自営就農に向けた準備を進めることとしている。



作業中に社長とコミュニケーションをとる様子



農作業の様子

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、雇用型農業経営を確立した元従業員がおり、身近に好事例があります。社長から農業経営の考え方や時間管理の重要性について説明を受けたり、機械作業ができるように免許取得を勧めていただいたりしてます。また、日頃から社長のご家族や先輩従業員の方から、栽培管理などの作業方法について丁寧な指導もあり、農業経営に対するイメージが明確になりつつあります。

紹介いただいた支援センターの就農専属スタッフの方とご縁だと感謝しております。

専属スタッフ所感

相談時から、本人の精神面と体力面とも充実した有望な人材であり、期待ができると感じました。今回、相談者の希望である経営内容や勤務場所等と農業法人の希望が上手く合致しました。就農へ導くためには、マッチングが非常に重要であると考えております。

期待通り勤務態度も非常に良く、農業法人からの評価が高いです。今後、福岡県の若手担い手として、普及指導センターと連携しながら、引き続きフォローしていきます。



佐賀県一のいちご単収を目指す川西宏貴氏

概要

- ◆氏名・所在地
川西 宏貴 佐賀県白石町
- ◆研修開始年
令和5年5月
- ◆事業内容
トレーニングファームにて、いちご経営の研修に取り組む。

1 就農相談までの背景

前職では飲食業界で勤務していたが、コロナ禍で飲食業界に大きな影響を受けたこともあり、前々から関心を持っていた農業に転職したいと考えるようになった。

退職後、兄の住む福岡県で露地野菜の研修を受けながら、全国就農促進イベントに参加するなど、情報収集を行った。

そのような中、トレーニングファームが佐賀県にあることを知り、他にも同様の施設等がないか情報を得るため「さが農業経営・就農支援センター」の就農相談窓口である佐賀県農業公社のホームページからWebによる就農相談の申し込みを行った。

2 相談内容

福岡県でたまねぎなどの研修中だが、間もなく研修期間が終了するので、次の研修先として佐賀県内の露地野菜か施設野菜の研修を受けたい。

香川県出身だが、家を継ぐ必要はなく、どこで就農してもよく、いったん農業法人に就職し、就農の準備をしてもよいと考えているので、求人をしている県内の農業法人や農業研修先について教えてほしい。

3 支援内容

● トレーニングファームの紹介

相談内容から複数の研修施設を紹介、その内の中から、「白石地区いちごトレーニングファーム（以下「トレーニングファーム」という。）」で計3回に及ぶ見学を通して、先輩、後輩を問わず、研修生が生き生きといちご栽培に向き合う姿に魅せられ、トレーニングファームのある白石町でのいちご栽培による就農を志すこととなった。

● 農地利用や生活面の対応

就農準備に向けて、紹介した白石町は家賃やレンタカー、燃料費などの支援だけでなく、町広報誌を通して就農時の農地探しも支援している。

● 関係機関との連携による取組

いちごトレーニングファームを運営するJ Aさがでは、白石町と連携し、農地の斡旋やリース事業活用によるハウス建設計画などの就農に向けた調整を行っている。

また、普及指導センターでは、J Aさがやトレーニングファームなどを交えた定例会や現地圃場研修を行うとともに、就農後のフォローアップとして、重点的な技術・経営面の助言と指導を行うこととしている。



トレーニングファームのトレーナーを囲む3人の同期研修生



いちごトレーニングファームで研修中の川西氏

今後の意気込み

トレーニングファームに入る決め手は、親身になって指導していただくことになるトレーナーはもとより、研修生達が切磋琢磨しながらいちご栽培を学ぶことです。

研修終了後も、同期研修生3人の互いの絆を大事にしながら、同じ園芸団地に就農し、よきライバルとしていちごの単収佐賀県一を目指します。

専属スタッフ所感

相談者は就農に向け、トレーニングファームで熱心に栽培技術や知識の習得に向けて日々励んでおられます。

今後、就農後の経営安定に至るまで、ご本人の努力はもとより、就農する町やJ A、農業振興センターなどの支援が不可欠です。

仲間との絆を大事にしながら、支えてくれる周囲の皆さんへの感謝を忘れず、いちご農家を選択してほんとに良かった、と思えるような農業経営を実現してほしいと期待します。



佐藤裕介氏

概要

- ◆氏名・所在地
佐藤 裕介 長崎県諫早市
- ◆就農年
令和4年6月
- ◆経営規模
いちご 0.23ha
- ◆従業員数
家族労働 3名
- ◆事業内容
いちご高設栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

大学卒業後、営業職として民間企業に勤めていたが、農業に関心があり、農業でみんなが笑顔になることを目指し、地域で栽培されているいちご栽培に取り組むことを決意した。

何から始めれば良いか分からなかったが、長崎県におけるいちごに関する支援策や研修制度をネットで調べたところ、「長崎県農業経営・就農支援センター（旧長崎県青年農業者等育成センター）（以下「支援センター」という。）」を知り、相談した。

2 相談内容

「長崎県でいちご栽培を始めたい」と大まかな構想はあったが、農業経験がなかったため、いちご栽培を始めるにあたって、どのようなことが必要になるのか等について、ネットを活用して情報収集を行った。

しかし、農業の知識がほとんどなかったため、技術習得の方法や支援制度に関する専門的な観点からの助言等を受ける必要性を感じ、こうしたことのほか、より具体的な営農までの計画について相談したい。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

いちごを栽培するというだけでは決めていたが、農業未経験ということで農地取得や施設（ハウス）整備のことなど、農業を始める上で必要な情報を提供するなどの相談対応を就農専属スタッフが行った。

●研修機関等の紹介

相談者と協議を行い、農業の基礎技術及びいちご栽培を行う上で必要な実践技術習得ができる長崎県技術習得支援研修を受講することを決定した。

2か月間の基礎研修の後、諫早市内のいちご先進農家で10か月間研修を受け、栽培技術を習得した。

●関係機関との連携による取組

支援センターのサテライト窓口である普及指導センターや支援センターと連携しているJ Aながさき県央及び諫早市と共に、研修中から農地確保や施設（ハウス）整備等の協議を行い、円滑な就農につなげることができた。

●就農市町村の決定

地元である諫早市において、45aの農地を借り受け、国の補助事業を活用してハウス23aを整備した。ハウスには、高設ベンチおよび環境制御機器を導入し、いちご栽培を開始した。



研修を受ける様子



長崎県技術習得支援研修修了式の様子

今後の意気込み

目標単収6.6t/10aの達成に向けて、環境制御技術を活用し、更なる栽培技術の向上を目指します。

また、最も労力を要するバック詰めの作業者を育成した後に、規模拡大を行いたいと考えています。

将来的には、いちごの加工品にも取り組みたいと思っています。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者は就農地や栽培品目が決定しており、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



富森識弘氏

概要

- ◆氏名・所在地
富森 識弘 熊本県水俣市
- ◆就農年
令和4年7月
- ◆経営規模
不知火類 1.21ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
加温・無加温及び露地不知火の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

大学卒業後は、石油会社に就職し、海外勤務も経験したが、転勤に伴う子どもたちの転校も多かったことから、子どもたちに「故郷を持たせたい」との思いがあり、生まれ育った熊本県内での本格的な就農を考えるようになった。

当初、観光農園やコーヒー栽培、地域おこし協力隊、法人就職等の可能性を探ったが、決め手となるものが見つからず、熊本県の就農相談窓口である「熊本県農業経営・就農支援センター（旧熊本県新規就農支援センター）（以下「支援センター」という。）」に相談した。

2 相談内容

就農のために、自分なりに情報収集していたが、観光農園等のいずれの方法も家族を養って行くための、農業所得を確保することが容易ではないと感じていた。特に、きちんと収量が確保できる規模の農地を自力で探すことができなかった。年齢も当時41歳ということで失敗はできないという焦りもあり、自分の状況と希望にあった、就農地と栽培品目を紹介してほしいとの思いから相談に踏み切った。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

当初、相談者の希望する農業形態が明確でなかったため、相談者の家族構成や年齢、必要な農業所得について就農専属スタッフが十分に聞き取り、相談者の希望を踏まえた実現可能な農業形態にブラッシュアップした。

●研修機関等の紹介

相談者に適したJ Aや市町村ごとの研修先及び移住情報を提供し、適性を探るため、実際に短期研修や受入研修機関との面談を実施した。

最終的に、J Aあしきたでの長期研修に参加することに決定したため、相談者の同意の下、就農専属スタッフからJ Aあしきたへ情報を提供した。



短期研修で新規就農者から説明をうけている様子

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携しているJ Aあしきたにおいて、実践的な農業技術にかかる基礎知識、農業経営者としての自立に向けたカリキュラムや研修を行った。

●「リリーフ園制度」による就農・継承先の決定

J Aあしきたには、高齢などを理由に離農する農家の果樹や設備、園地の継承をサポートする「リリーフ園制度」があるため、研修を受けた相談者は、その制度を活用して前園主から整備された状態で園地を引き継ぐことができ、就農1年目から収穫を行うことができた。



全国から農作業体験を受け入れ

今後の意気込み

就農にあたり、支援センターを始め、多くの関係者の方からの支援を受けてきました。まずは何よりも生産技術と農業所得の向上に努め、家族をしっかりと養える生産者を目指します。あわせて、前園主から引き継ぎさせていただいた果樹園を次世代に繋いでいくためにも、生産・規模拡大・販売方法、人の雇用の観点から新しいことにも積極的に取り組んでいきます。

専属スタッフ所感

新規で就農するとなると、かなり時間がかかります。相談者には、研修受講も就農園地にもタイミング良く支援できました。これは、度重ねての相談会やバスツアー等のイベントへの積極的な参加、そして明確な就農目的が目標達成の要因であると考えます。

地域の関係機関一体となって相談者の目標達成を今後も温かく見届けていってほしいです。



農業体験研修に取り組む東氏

概要

◆氏名・所在地

東 隆行・千尋 大分県豊後大野市

◆研修開始年

令和6年1月

◆研修内容

農業経営の座学と模擬営農等、ピーマンでの就農に向けて2年間の長期研修に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

前職は他県で食品会社の加工部門の現場主任として勤務していたが、転勤や職場環境等から自身の出身地である大分への帰郷を考えるようになった。そのような時、豊後大野市の就農学校であるインキュベーションファームのホームページを見てピーマン栽培に関心を持ち、妻と相談して農業をやろうと考え、令和4年度に「おんせん県おおいた就農・就業応援フェア」の「おおいた農業経営・就農支援センター」のブースで就農相談をした。

2 相談内容

ピーマン栽培で生計が成り立つか不安があり、栽培知識も持っていないため、インキュベーションファームに入校したい。ついては、同学校の研修内容や卒業生の実績（収穫量や収益等）、入校手続き、スケジュールを教えてほしい。

また、入校までに農業体験研修ができるのかや、農地の確保や研修中の生活面に支援がないのかを聞きたい。

3 支援内容

●就農市町村の決定、研修機関等の紹介

相談者から豊後大野市での研修希望があったため、同市の担当者を紹介し、相談対応を行った。

また、相談者から希望のあった入校までの**農業体験研修については、就農専属スタッフが短期研修を支援する事業を紹介し**、令和4年度に短期の農業体験研修を受講後、令和5年度にインキュベーションファームに入校して、本格的な農業研修を開始している。

●生活面等の相談対応

相談者の関心があったインキュベーションファームの卒業生の実績等のほか、インキュベーションファームでは研修中の宿舎を整備していることなど、生活面の支援等について説明を行った。

●関係機関との連携による取組

自営就農に向けた経営相談や雇用対策などの相談は、**就農専属スタッフやインキュベーションファームのある市町村のフォローアップチームが連携**を取りながら対応している。

相談者は、インキュベーションファームの座学において、農業技術や農政にかかる基礎知識、営農までの計画策定の方法等に係る講義を受けている。農地については、豊後大野市とインキュベーションファームの講師が中心となって紹介し、売買や賃借契約ができる体制が構築されている。



農業体験研修を受ける様子



インキュベーションファームの外観



インキュベーションファームで講義を受ける様子

今後の意気込み

短期の農業体験研修の間にいろいろな課題解決が出来て大変勉強になりました。今後に生かせることが多く、インキュベーションファームでの研修を頑張りたいです。

配偶者も、農業体験研修は楽しく良い経験になったと言っており、これから夫婦一緒に頑張ろうと思っています。

専属スタッフ所感

相談者は、インキュベーションファームに入校する前に、短期研修を経験したことで、ピーマン栽培のイメージや農業の実態を体験できたため、トラブルが少なかったです。また、研修にご夫婦で参加しており、お互いに作業の補完や相談が出来ています。

さらに、先輩からのアドバイスや実績で、相談者のビジョンが明確になっているようです。



小谷晃史氏

概要

- ◆ 氏名・所在地
小谷 晃史 宮崎県国富町
- ◆ 就農年
令和6年8月
- ◆ 経営規模
施設きゅうり 0.27ha
- ◆ 従業員数
パート・アルバイト 3名
- ◆ 事業内容
施設きゅうりの栽培に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

前職で、個人事業主として建築業を営んでいたが、兄が農家で働き始めやりがいを感じていることに刺激を受け、自身も農業に興味を持つようになった。

就農に必要な情報を収集している最中に知人から中古空きハウスの情報提供を受けた。その物件があるA町就農相談センターへ相談し、独立自営就農を目指して「みやざき農業実践塾」で研修を受けることを決意し、面接等を経て入塾した。「宮崎県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」は研修開始後から相談対応を実施している。

2 相談内容

最初の相談は就農準備資金の活用や青年等就農計画の認定申請に向けての準備等に関してであった。一方、就農先として検討していた中古ハウスは、修繕費が高額になること等が判明して取得を断念したため、他の物件を探した。同時期に高齢のため引退を決意した農業者から支援センターに、ハウスや農地の承継先について相談があり、研修先との連携の下、経営承継についてのマッチングが成立した。その時点で研修期間を半年以上残していたため、就農までの期間、圃場の維持管理等について相談したい。

3 支援内容

● 農地利用や生活面の相談対応

就農準備資金の申請手続や交付、研修状況確認など研修期間中の支援を行った。

就農予定農地の就農までの保安全管理については、支援センター及び農地中間管理機構と農地のある地区就農相談センター（国富町）が協議し、宮崎県スタンバイ農地事業*を活用することとした。

* 新たな担い手が農地を速やかに利用できるように、農地中間管理機構と市町村推進チーム等が連携し、予め農地を用意（機構が中間保有し、農地として保安全管理）しておく仕組み。

● 関係機関との連携による取組

支援センターとして、相談者の就農準備状況に合わせ、就農準備初期段階から研修修了前まで継続して、研修先のみやざき農業実践塾や国富町、中部農業改良普及センター等と情報共有や協議など、連携して就農支援を行った。

● 就農市町村の決定

農業用ハウス及び農地は、持ち主からの情報提供がきっかけで確保でき、国富町での就農を目指すために、宮崎県スタンバイ農地事業の活用や青年等就農計画の認定申請手続等を進めた。



支援センターによる支援の様子（研修中）



承継する農地と農業用ハウス（保安全管理中）

今後の意気込み

出し手農家の方から「これまで自分の生活を支えてくれた施設が今後も活用されることはうれしい」と感謝の気持ちを伝えられ、改めて少しでも早く1人前の農業者になれるよう頑張りたいと決意しました。今後は兄と協力し、出し手農家や周辺農家の方々からの指導や協力を仰ぎながら、規模拡大を図りたいです。そして、経営が安定すれば兄弟それぞれが施設きゅうりで独立して法人化を果たし、更なる経営発展を目指します。

専属スタッフ所感

相談者は、就農に向けた情報収集や準備を十分に行った上で研修を開始され、就農相談窓口や研修先のアドバイスを真摯に受け止めて、研修も真面目に一生懸命取り組まれました。また、自らのスキルを活かし、初期投資を抑える努力もされ、そういったことが自営就農につながったのではと考えます。

今後も地域の関係機関等と連携し支援を継続していきます。



桑波田温士氏

概要

◆氏名・所在地

桑波田 温士 鹿児島県日置市

◆研修開始年

令和6年4月

◆事業内容

鹿児島県立農業大学校（野菜科）で就農に向けた技術習得に取り組む。

1 就農相談までの背景

前職で人工衛星と人工知能を活用した農場の分析研究に関わり、AgriTecに興味を湧いた。以前から、農業に関心があり、今までのITの知見を生かし、生まれ育った鹿児島でICTを活用した多品目の農作物を有機栽培で作り、農業ビジネスに参入したいと考えた。

しかし、農業を始めるとなると、何から始めれば良いかわからず、色々と調べたところ、「かごしま農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」があることを知り、当時の勤務地である東京都で開催された「新・農業人フェア」に参加した。

2 相談内容

「鹿児島県でICTを活用した有機栽培を始めたい」と大まかな構想はあるが、何から始めれば良いかわからない。農業の経験もなく、技術の習得や資金確保の不安などもあり、専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、より具体的な就農までの計画や農業の技術を学べる研修機関について相談したい。

3 支援内容

●就農に向けた相談対応

令和6年1月に東京で行われた「新・農業人フェア」において、農業にビジネスとしての将来性を感じ、ソフトウェア会社を辞めて、出身地である鹿児島県で就農したいという相談を受け、県内の有機栽培の取組事例や技術・経営面の課題などの情報提供や研修先の紹介を行った。

●研修機関の選定

相談者は、就農前に研修機関で研修したいという要望があったため、県内の研修機関の中から、幅広く農業のことが学べる鹿児島県立農業大学校（以下、「農業大学校」という。）を紹介し、同校の教育カリキュラム等について説明した。

●農業大学校との連携による取組

相談者の情報を農業大学校と共有し、相談者への相談対応や支援を依頼し、相談者から連絡を受けた農業大学校がカリキュラムや入試日程等の詳細な情報を提供した。

●研修機関の決定

農業大学校を受験し、令和6年4月に野菜科に入学し、現在、就農に向けて専門的な技術習得や関連する資格取得に取り組んでいる。



講義を受ける様子（農業大学校）



実習を受ける様子（農業大学校）

今後の意気込み

今回、支援センターの窓口で相談したことで、ネットの情報だけでは分からない実情や情報を得ることができました。

現在、農業大学校に入学し、専門的な技術の習得や関連する資格取得に取り組んでいます。就農後の経営についてはまだ手探り状態ですが、就農の相談等を受けていただいております。関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

相談者は、農業に対する意欲と明確な目標を持っていたので、就農に向けた様々な提案やアドバイスをさせていただきました。相談者は、農業経験はないものの、農業大学校で基本的な農業知識を学び、栽培技術を習得することで、就農に向けて準備を進めています。

今後とも、農業大学校や就農予定地の関係機関と連携を図りながら、支援を続けていきます。



タカハシ氏・タカガキ氏



概要

- ◆氏名・所在地
タカガキ エリオ タケシ 氏、
タカハシ エドアルド トシオ 氏 沖縄県国頭村
- ◆就農年
令和5年8月
- ◆事業内容
就職先の株式会社フローラやんばるファームにて、パインアップルの生産と販売に取り組む。

1 就農相談までの背景

タカガキ氏とタカハシ氏は共に、ブラジル出身で20年前に来日した。タカハシ氏は愛知県にてポスターやチラシの制作を自営業で行っていたが、コロナ禍による業績不振や冬の寒さなどをきっかけに、温暖な沖縄に移住してキャッサバやバナナ等の農作物を作って生活することを決心した。インターネットで「沖縄県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」の存在を知り、電話で相談したところ、親切に対応してもらったので、義理の父であるタカガキ氏と共に家族5人で支援センターを訪れた。

2 相談内容

温暖な沖縄に移住してキャッサバを栽培しながら生活したいという漠然とした希望はあるものの、農業の経験や技術は全くなく、親戚などもない状況で家族全員で移住し生活していくことが不安であった。また、住む場所や生活費の確保、農業技術習得の方法、子どもの学校、農地の確保など多くの問題があり、支援センターによるアドバイスを求めた。

3 支援内容

●住居の確保・子どもの教育

移住による新規就農のため、①住居の確保、②生活費の確保、③技術習得、④子どもの教育、⑤農地の確保の5つの課題をクリアできる可能性のある市町村として国頭村を就農専属スタッフが紹介し、それぞれの課題に対する支援を行った。

また、子育てには最適な地域である国頭村安波区の区長に依頼し、区が管理している宿舎を紹介いただいた。

●自営就農のための農地確保

国頭村農林水産課の担当職員と面談し、技術習得後の農地斡旋や青年等就農計画の認定申請、各種助成事業受給等の支援を依頼した。



国頭村安波区長との相談

●生活費や技術習得のための就業先紹介

国頭村の隣接村でパインアップルを生産している株式会社フローラやんばるファームとマッチングを図り、雇用就農につなげた。

●移住不安を払拭する支援

県内のブラジル出身就農者である野菜栽培農業者U氏と、キャッサバ栽培やスイーツ店の経営を行っているR氏を紹介し、先輩就農者として沖縄での農業や生活事情等を話してもらい、今後の参考となる助言をもらった。



国頭村農林水産課の職員との面談

今後の意気込み

初めての地域に家族全員で移住し農業で生活していくことに大きな不安がありましたが、支援センターの就農専属スタッフや先輩就農者、役場職員、区長、雇用先の社長など多くの方々に支えられ、無事生活基盤を整えることができました。パインアップルの栽培技術も徐々にですが習得でき、将来の就農に自信が出てきました。私たち家族を支えていただいた関係者の皆様方に感謝しております。

専属スタッフ所感

支援センターには、県外から電話等で多くの就農相談が寄せられます。農地確保の面から就農に至る事例は少ないですが、今回の事例では常日頃からの情報収集活動を上手く組み合わせ、技術習得のための雇用就農までこぎ着けることができました。今後も就農・定着に向けて、市町村や普及指導センターと連携して支援を継続していきます。